

音樂教室專用

YAMAHA ELECTONE®
HK-10

取扱説明書

は ヤマハエレクトーンHK-10は、
じ ヤマハ音楽教室の会場で使っていたために開発された、
め 音楽教室専用エレクトーンです。
め 豊かな音楽性と本格的な表現力はもちろんのこと、
コンパクトで明るいデザイン、
に 安全性と使いやすさを配慮した構造、
● HSシリーズとの互換性など、
エレクトーン教室での使用状況を考えてつくられています。
ご使用にあたりましては、
その多彩な機能を充分にお使いいただくため、
また正しく安全にお使いいただくために、
かならず本書をお読みください。
また、お読みになった後は大切に保管し、
わからないことが生じた時にご活用ください。

ご使用上の注意



必ず、AC100Vのコンセントから電源を。

大型クーラーやセントラルヒーティングの電圧は、AC(交流)200Vのものがあります。誤って接続すると大変危険ですので、充分ご注意ください。



電源プラグの扱いに注意。

ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持って抜いてください。



エレクトーンの内には、絶対ふれないで。

エレクトーンの改造や部品の取りはずしは、大変危険ですので、絶対におやめください。故障だと思われる場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



内部に水が入った場合は。

誤って水などをかけ、エレクトーンの内に入ってしまった場合は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた上で、電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



電源スイッチを切り忘れないように。

電源が入ったまま長時間放置すると、思わぬ事故の原因になることがありますので、使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。



エレクトーンを移動するときは。

かならず背面下のストッパーを解除してください。(背面下方の“ストッパーの操作方法”を参照してください。)移動の際は、かならず電源コードをコンセントから抜き、本体内部に収納させてください。また、段差にぶついたり床面の状態が悪い場所での移動は、できるだけさけてください。



エレクトーンの高倒しは、絶対に禁物。

エレクトーンの高倒しや運搬の際は、絶対に本体を高倒しにしないでください。



側面のすき間に、物をはさまないように。

側面のすき間から異物を入れないでください。故障の原因になります。

F U N C T I O N

各部の名称とはたらき

P13 ピブラート
音をふるわせる効果。

P12 サステイン
音に余韻を与える効果。

P9 ベースボイス
ペダル鍵盤の音色グループ。

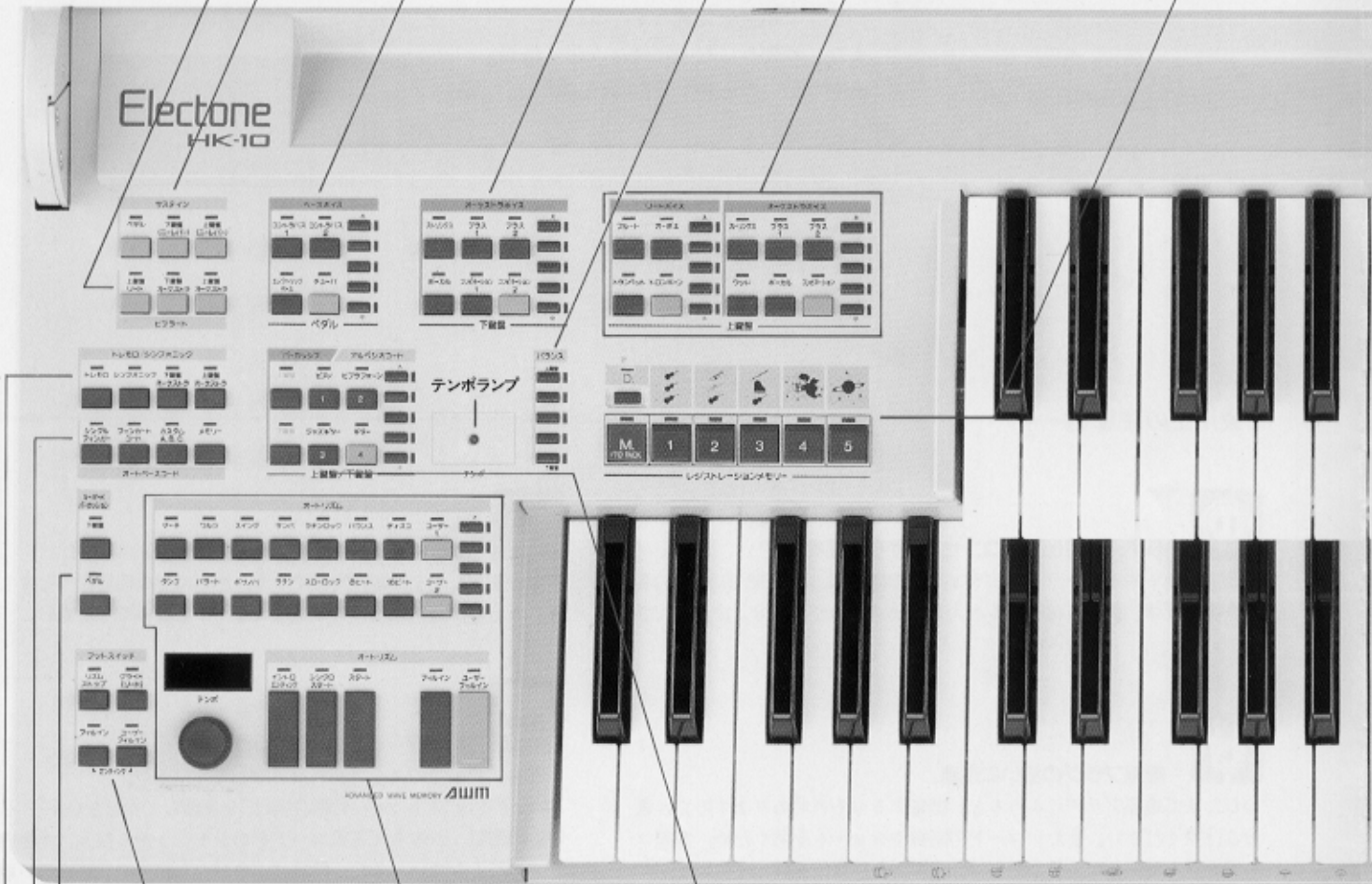
P8 オーケストラボイス(下鍵盤)
下鍵盤の音色グループ。

P8 バランス
上鍵盤と下鍵盤の音量の
バランスを調節。

P6 オーケストラボイス(上鍵盤)
リードボイス
上鍵盤の音色グループ。

P26・27
音色やリ

P5
基本



P20 キーボードパーカッション
いろいろな打楽器音が出る。

P21~23 オートベースコード
自動伴奏の使い方を選ぶ。

P13 トレモロ/シンフォニック
音に広がりをもたせる効果。

P16~18 オートリズム
リズムに関する機能。

P19 フットスイッチ
エクスプレッションペダルの
左についているフットスイッ
チの働きを選ぶ。

P6・8 バーカッシブ
上または下鍵盤の音色グル
ープ。(アルペジオコードとの
切り替え方は7ページ)

P24 アルペジオコード
伴奏パターンを選ぶ。
(バーカッシブとの切り替
え方は7ページ)

レジストレーションメモリー
リズムのセットを記憶。

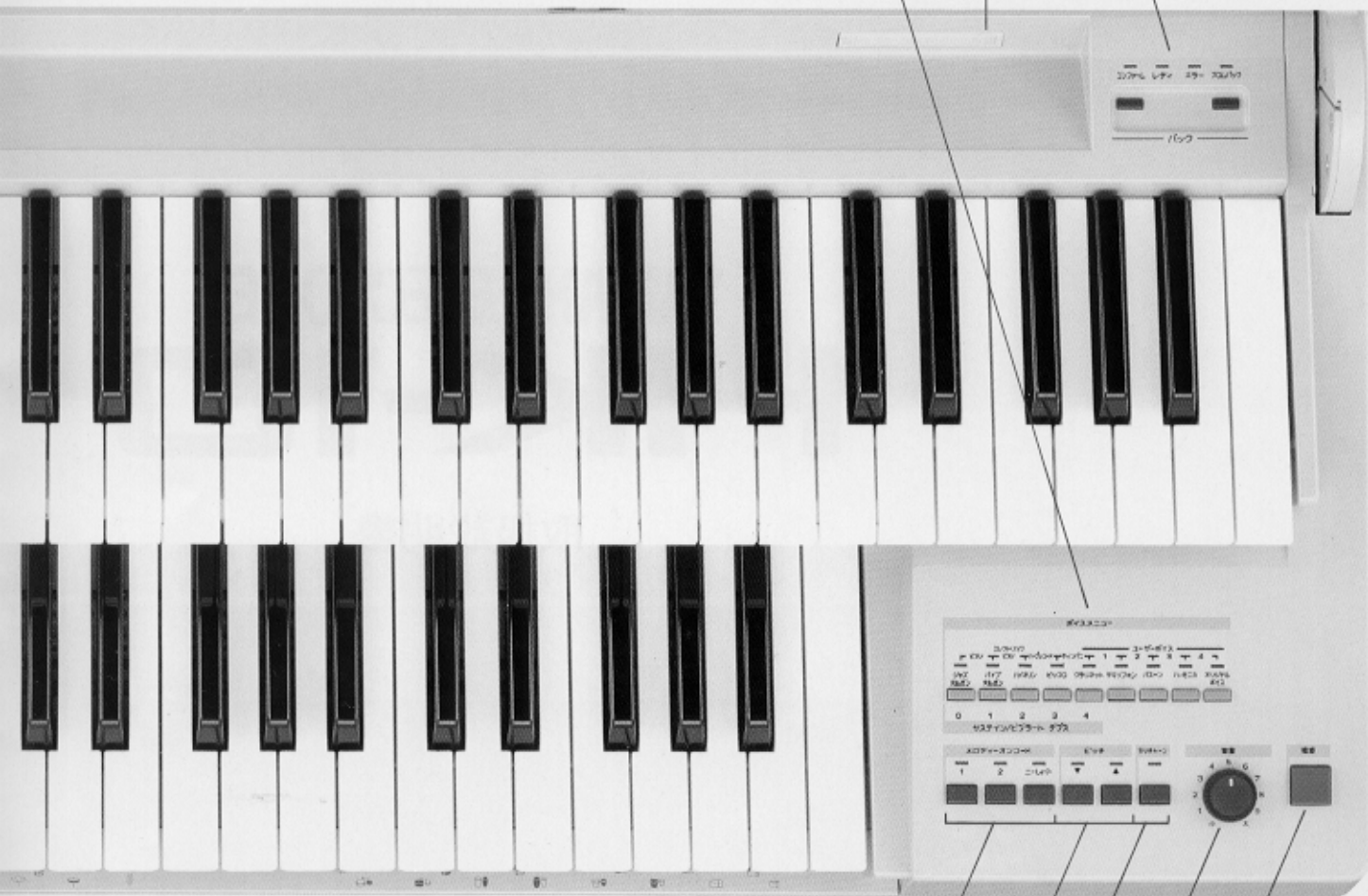
基本レジストレーション
的な音色の組み合わせをセット。

P10・11 ボイスメニュー
グレーのボタンに移して使う音色。

P12・13 サステイン/ビブラート・デプス
サステインの余韻の長さやビブラートの深さをセット。

P28・29 バック
エレクトーンに記憶させたデータをバックに移す。またはバックのデータをエレクトーンに移す。

バックの差し込み口



P25 メロディーオンコード
メロディーにハーモニーをつける。

P15 ピッチ
音程の微調整。

P14 タッチトーン
鍵盤タッチによって音量と音色を微妙にコントロールできる。

P4 電源
電源スイッチ。

P4 音量
全体のボリュームを調節。

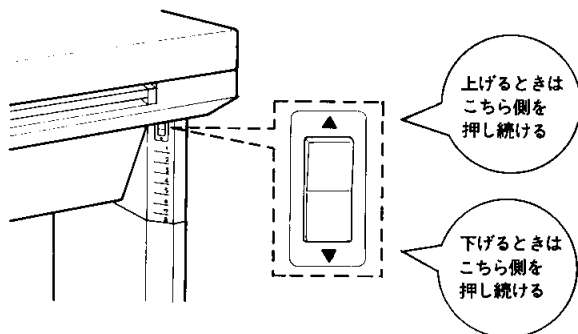
C O N T E N T S

■ご使用になる前に	2
■音を出すまでの準備	4
音色	VOICE
1 基本レジストレーション	5
2 パネルの音色 <上鍵盤の音色>	6
<下鍵盤の音色>	8
<ペダル鍵盤の音色>	9
3 ボイスメニュー	10
効果	EFFECT
1 サステイン	12
2 ビブラート	13
3 トレモロ/シンフォニック	13
4 グライド(リード)	14
5 タッチトーン	14
6 ピッチ	15
リズム	RHYTHM
1 オートリズム	16
2 キーボードパーカッション	20
演奏補助機能	PLAY ASSIST
1 オートベースコード	21
2 アルペジオコード	24
3 メロディーオンコード	25
メモリー機能	MEMORY
1 レジストレーションメモリー	26
2 パック	28
■付属端子	30
■末永く安全にお使いいただくために	31
■故障などお考えになる前に	32
■MIDIについて	34
■仕様と音域表	36
■YAMAHA電気音響製品サービス拠点	37

ご使用になる前に

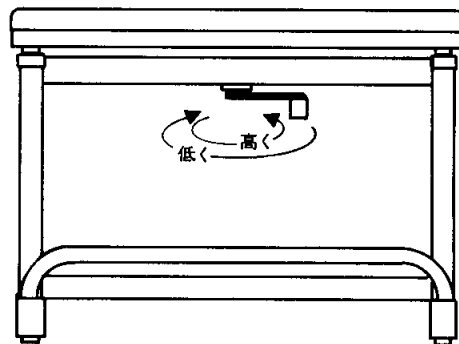
ヤマハエレクトーンHK-10は、教室備品としての使いやすさを考えて、上下昇降機構・キャスター・コードリール機能を備えています。

1 上下昇降機構(お子さまの体格に合わせて鍵盤の高さを調節できます。)



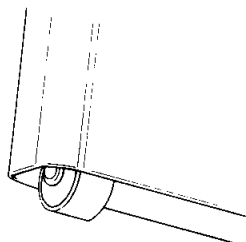
エレクトーン本体の高さを電動式により上下に調節することのできる、上下昇降機構が付いています。調節する際は、エレクトーンの右側板の内側にあるスイッチを、ちょうど良い位置になるまで押し続けてください。手を離せば、電動による移動は止まります。

▶上下18cmまでの高さ調節ができます。



椅子の高さも調節できます。高くしたいときはハンドルを左に、低くしたいときはハンドルを右に回してください。

2 キャスター/ストッパー(ひとりでも容易にエレクトーンを移動できます。)



エレクトーンの下部には、両サイドにキャスターが付いていますので、本体を簡単に移動させることができます。



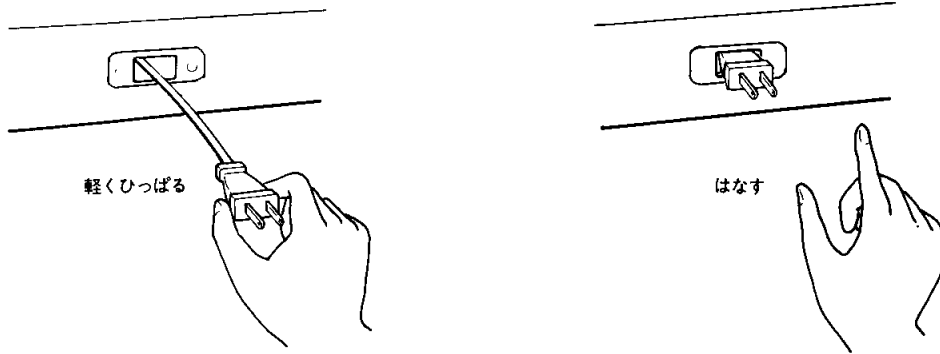
キャスターが動かせる状態。



キャスターを固定した状態

移動の際にはエレクトーンの裏側下の左右にあるストッパーを上げ、移動が終わったらキャスターが回らないようにストッパーを下げておきましょう。

3 コードリール機能(電源コードをエレクトーン内部に収納できます。)

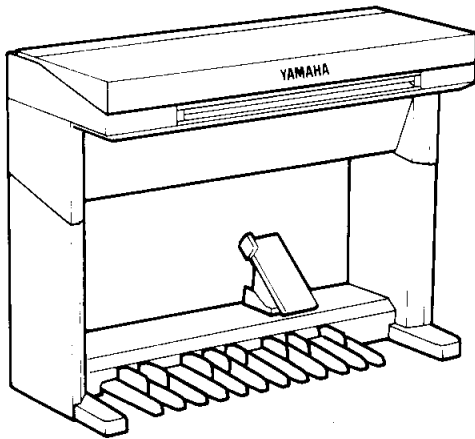


エレクトーンを使わない時は、安全のため本体内部に電源コードをしまっておきましょう。コードを軽くひっぱり、離すと、自動的に本体内部に収納されます。(収納の際にコードおよび本体をいためないようご注意ください。)

〈注意事項〉

★コードは赤いテープ以上引き出さないでください。

4 フタを閉めれば机としても使えます。(下の注意事項を必ずお読みください。)

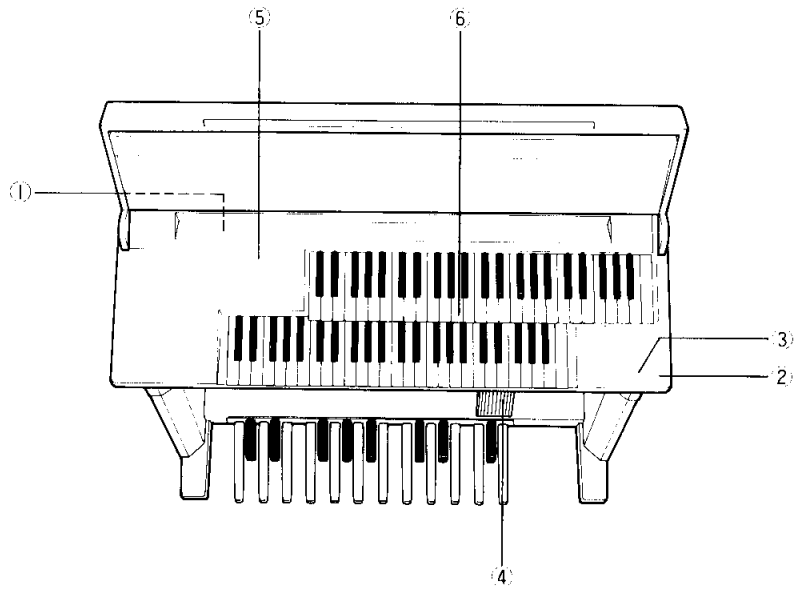


フタは開けると譜面台として使え、閉めると机として使用できます。

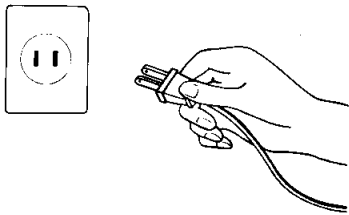
〈注意事項〉

★フタを閉める際は、譜面を乗せるところに筆箱やパッケースなど大きなものを置いたままでは絶対に閉めないでください。(エレクトーンに傷がつく場合があります。)

音を出すまでの準備

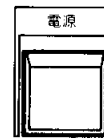


1 電源プラグをコンセントに差し込みます。

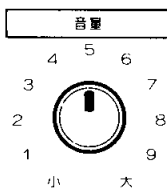


▶ AC100Vのコンセントであることを確認してください。

2 電源スイッチを入れます。

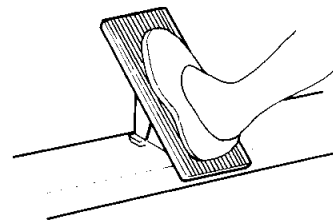


3 音量を中央ぐらいにセット。



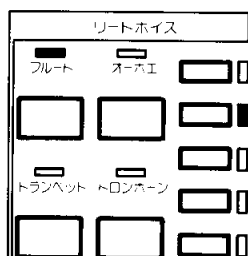
▶ エレクトーン全体の音量を調節します。

4 エクスプレッションペダルを右足で踏みこむ。

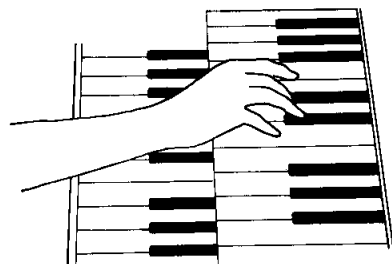


▶ このペダルも全体の音量をコントロールするもので、演奏しながら音に強弱がつけられます。

5 リードボイスを図のようにセット。



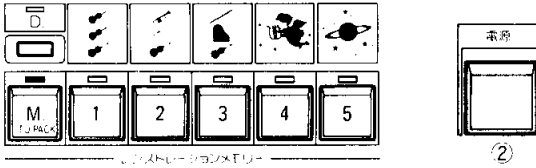
6 上鍵盤を弾いてみましょう。



1 基本レジストレーション

エレクトーンの演奏によく使われる5種類の基本的なレジストレーション（音色のセット）を、ボタンひとつで呼び出すことができます。

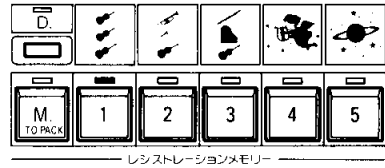
1 いったん電源をオフにします。それから赤いメモリーボタン①を押さえながら、電源②をONにします。



①

▶電源を入れたあと、メモリーボタンから指をすぐ離さず、そのまま約1～2秒間押さえ続けてください。

2 数字のボタンをひとつ押します。

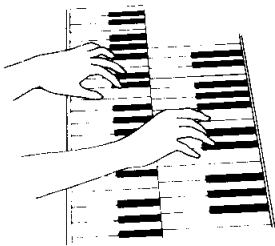


▶押したボタンのランプが点灯し、基本レジストレーションのひとつがパネルにセットされます。

1～5のボタンでセットされる音色は次の通り。
【基本レジストレーションの音色】

	1	2	3	4	5
サウンド	ストリング アンサンブル	ブラス アンサンブル	フルート・ピアノ アンサンブル	コズミック サウンド	シンセ サウンド
上鍵盤	ストリングス	ブラス	フルート	コズミック	シンセプラス
下鍵盤	ストリングス	ブラス	ピアノ	コズミック	シンセプラス
ペダル鍵盤	コントラバス	コントラバス	コントラバス	コズミック	シンセベース

3 鍵盤を弾いてみましょう。



▶基本レジストレーションの音色が上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤のそれぞれから出てきます。
なお、1～5のボタンでセットされる音色は次のとおりです。

基本レジストレーションに関する細かい説明

〔セットされたレジストレーションは変更できます。〕

★1～5のボタンを押して基本レジストレーションを呼び出すと、上/下鍵盤のオーケストラボイスとベースボイスのグレーのボタンが点灯し、それぞれの音量が自動的にセットされます。これらのセッティングは、必要に応じて変更することができます。

- グレーのボタン以外の音色ボタンを押せば、音色が変わります。
- リードボイスの音量を上げれば、リードボイスの音色も出てきます。
- 音量の変更もできます。

〔レジストレーションメモリーとの関係〕

★レジストレーションメモリーの機能を使えば、数字ボタンにパネルのセッティ

ングを記憶させることができます。基本レジストレーションを呼び出した後、メモリーの操作を行うと、1～5の数字ボタンでは、基本レジストレーションの替わりに、パネルのセッティングが記憶されます。(→26・27ページ)

★パネルのセッティングを記憶させた後、再び基本レジストレーションを呼び出す操作を行うと、1～5の数字ボタンの内容は、すべて基本レジストレーションの内容に入れ替わります。

★基本レジストレーションだけを使って演奏し、電源をオフにした場合は、再び電源をONにすると、メモリーボタンを押さなくても基本レジストレーションが呼び出されます。

基本レジストレーションに関するボタン

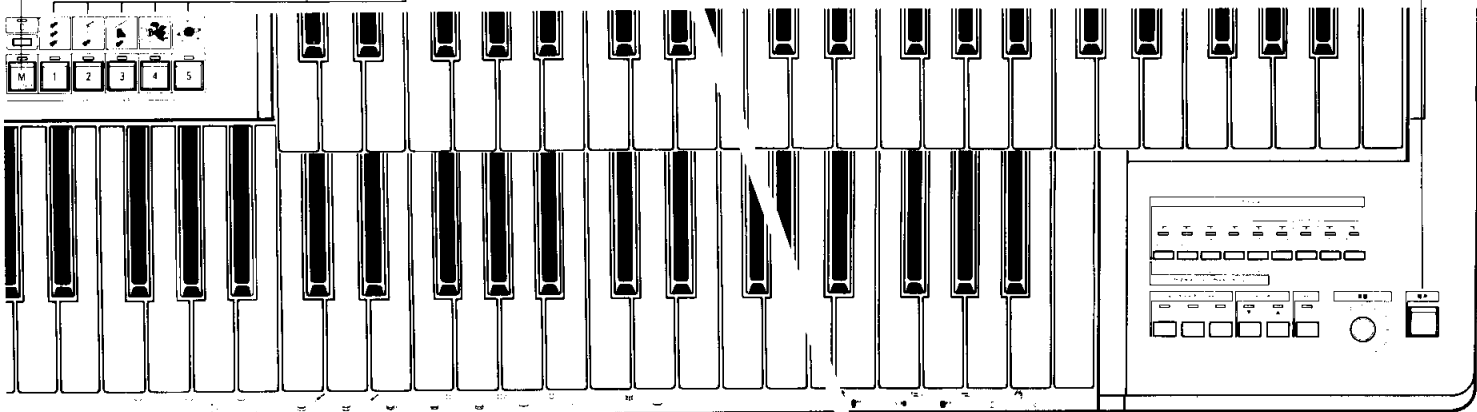
メモリーボタン

基本レジストレーションをレジストレーションメモリーの1～5のボタンに呼び出すときに使います。

それぞれの絵のイメージを持つ音色の組み合わせがこの5つのボタンにセットされます。

電源

基本レジストレーションを呼び出すときは、電源のボタンも使います。



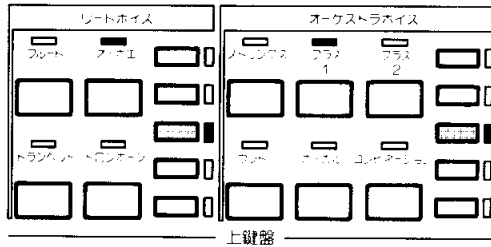
2 パネルの音色

上鍵盤には3つ、下鍵盤には2つ、ペダル鍵盤にはひとつの音色グループがあります。
(ボイスメニューの音色を呼び出して使うこともできます。→10~11ページ)

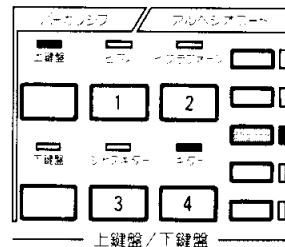
〈上鍵盤の音色〉

リードボイス オークストラボイス パーカッシブ の音色グループがあります。
(上/下どちらかの鍵盤)

1 上鍵盤のリードボイス、オーケストラボイスから音色をひとつ選んでON。



2 パーカッシブを使う場合は、上鍵盤のボタンを押してから、音色をひとつ選んでON。



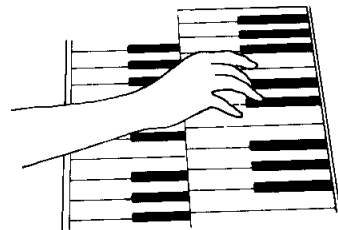
▶パーカッシブとアルペジオコードの切り換えについては、7ページをお読みください。

3 それぞれの音色グループの音量をセット。

- (最大)
- (やや大きい)
- (中くらい)
- (やや小さい)
- (音量ゼロ)

▶音量は5段階にセットできます。(他の音色グループも同様)

4 上鍵盤を弾いてみましょう。



パネルの音色に関するボタン

ベースボイス
ペダル鍵盤の音色。さまざまな低音楽器の音色が選べます。

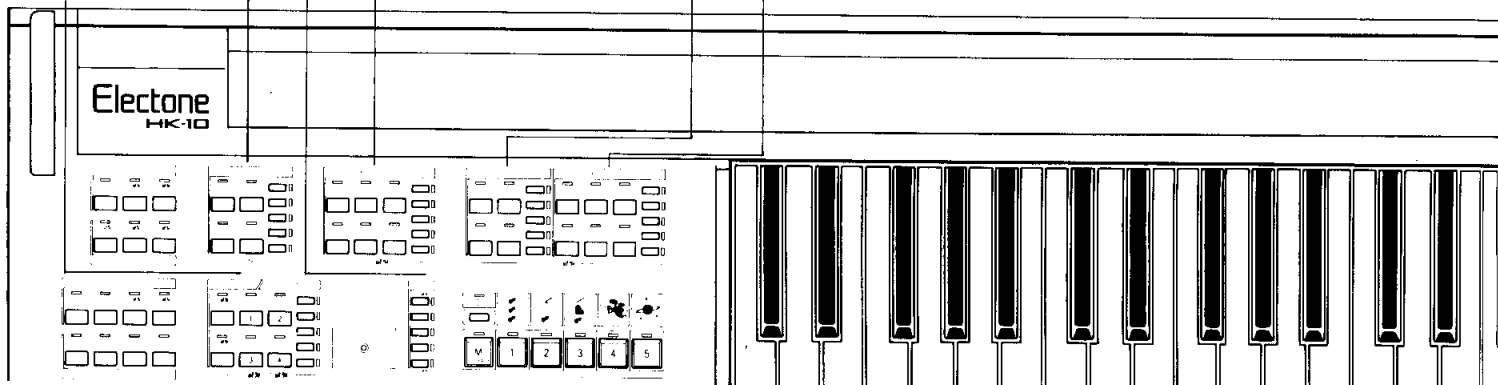
パーカッシブ
上鍵盤または下鍵盤で使う音色。ピアノやビブラフォンなど、減衰系の音色が選べます。

バランス
上鍵盤と下鍵盤との音量のバランスはここで調節。

オーケストラボイス(下鍵盤)
下鍵盤のオーケストラ音色。オーケストラの主要な楽器音やオルガンサウンドが選べます。

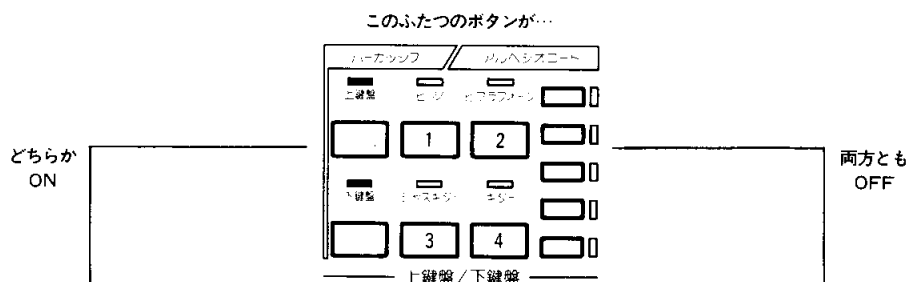
リードボイス
フルートやオーボエなどのソロ楽器の音色が選べます。

オーケストラボイス(上鍵盤)
上鍵盤のオーケストラ音色。オーケストラの主要な楽器音やオルガンサウンドが選べます。



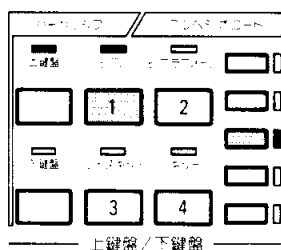
パーカッシブ／アルペジオコード

パーカッシブとアルペジオコードはボタンを共有しており、かならずどちらかの機能が選ばれるようになっています。(パーカッシブとアルペジオコードのふたつの機能を同時に使うことはできません。)

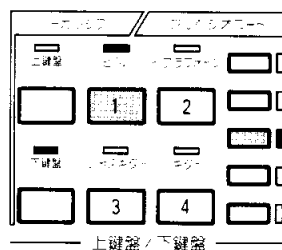


パーカッシブ(→P6~8)

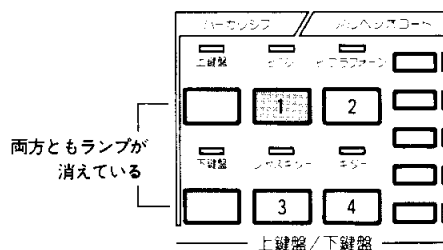
アルペジオコード(→P24)



パーカッシブの音色が
上鍵盤から出る状態。



パーカッシブの音色が
下鍵盤から出る状態。



アルペジオコードのバ
ターンが下鍵盤から出
る状態。

▶ ボタン上に表示されている1~4の数字は、アルペジオコードとして使うときのパターン番号です。パーカッシブの機能を使うときには関係ありません。

▶ パーカッシブの機能が選ばれている状態(上・下鍵盤のどちらかがON)からアルペジオコードの機能が選ばれている状態(上・下鍵盤が両方もOFF)に切り替えると、1~4の数字ボタンと音量のランプの位置が、パーカッシブを選ぶ前にアルペジオコードで選んでいた位置に切り替わります。

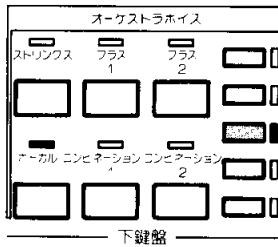
▶ ボタンの上側に表示されている音色名は、パーカッシブとして使うときの音色です。アルペジオコードの機能を使うときには関係ありません。

▶ アルペジオコードの機能が選ばれている状態(上・下鍵盤が両方もOFF)から、パーカッシブの機能が選ばれている状態(上・下鍵盤のどちらかがON)に切り替えると、音色のボタンと音量のランプの位置が、アルペジオコードを選ぶ前にパーカッシブで選んでいた位置に切り替わります。

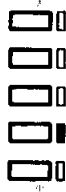
〈下鍵盤の音色〉

オーケストラボイス パーカッション の音色グループがあります。
(上/下どちらかの鍵盤)

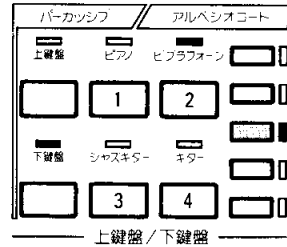
1 下鍵盤のオーケストラボイスから音色をひとつ選んでON。



3 それぞれの音色グループの音量をセット。

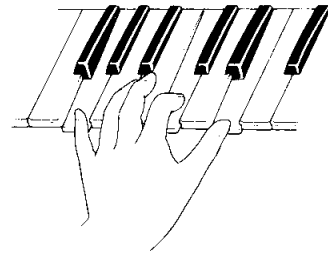


2 パーカッションを使う場合は、下鍵盤のボタンを押してから、音色をひとつ選んでON。



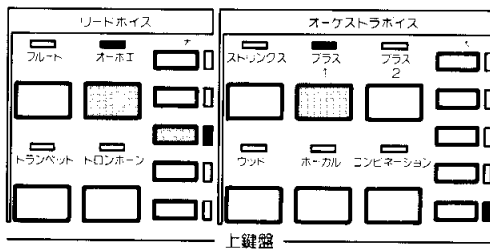
▶パーカッションとアルペジオコードの切り替えについては、7ページをお読みください。

4 下鍵盤を弾いてみましょう。



発音させない音色グループは音量を“ゼロ”に。

たとえば鍵盤のオーケストラボイスを発音させたくないときは、上鍵盤のオーケストラボイスの音量をゼロ(一番下のボタン)にセットします。



上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスは…

バランスのボタンで調節します。「上鍵盤」側にセットすると上鍵盤の音量が下鍵盤よりも大きくなり、「下鍵盤」側にセットすると下鍵盤の音量が上鍵盤の音量よりも大きくなります。

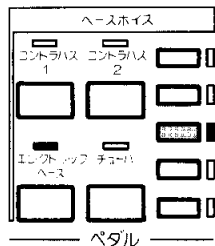


上鍵盤の音量が下鍵盤の音量よりもやや大きい状態。

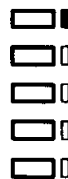
〈ペダル鍵盤の音色〉

ベースボイスの音色グループがあります。

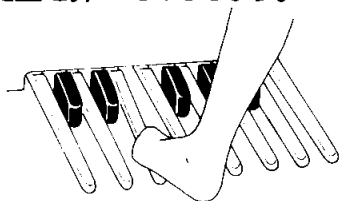
1 ベースボイスから音色をひとつ選んでON。



2 音量をセット。



3 ペダル鍵盤を弾いてみましょう。



ペダル鍵盤が発音しない場合

オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガードコードをONにしているときは、ペダル鍵盤を弾いてベース音を発音させることはできません。

音色に関する細かい説明

〔同時発音数〕

- ★オーケストラボイスとパーカッションは最高7音まで、リードボイスとベースボイスはそれぞれ1音のみ発音します。
- ★リードボイスは、同時に2音以上押さえると、一番高音の1音だけが発音します(ベースボイスも同様)。上鍵盤のオーケストラボイスの音量を0にしている場合も高音優先です。

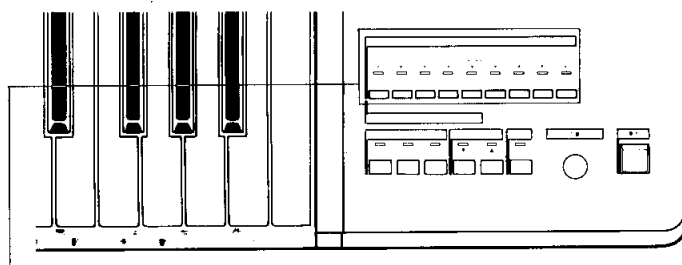


リードボイスは、ふたつ以上の鍵盤を押さえると、一番高い1音だけが発音します。

- ★パーカッションは、同時に上鍵盤と下鍵盤の両方から発音させることはできません。
- 〔音量のボタンについて〕
- ★音量のボタンを2つ同時に押した場合は、「大」の方に近いボタンが優先されてONになります。

〔グレーのボタンについて〕

- ★上鍵盤のオーケストラボイスとリードボイス、下鍵盤のオーケストラボイス、ペダル鍵盤のベースボイス、そして上鍵盤または下鍵盤で使うパーカッションには、それぞれひとつずつグレーのボタンがあります。これらのボタンでは、パネルに表示されている音色を選ぶほかにも、ボイスメニューの音色を移して使うことができます。(→10~11ページ) また、基本レジストレーションを使っているときは、グレーのボタンがONになります。(→5ページ)

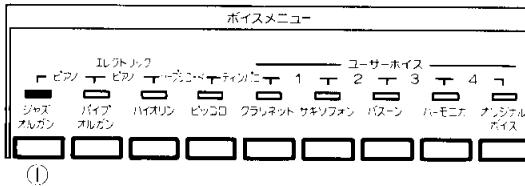


ボイスメニューには12のプリセット音色と4つのユーザーボイス音色があり、グレーの音色ボタンに呼び出して使うことができます。

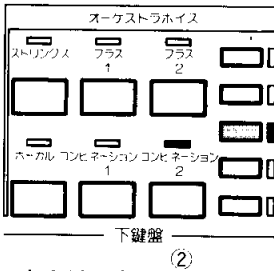
3ボイスメニュー

パネルの右側に表示されている12のプリセット音色と4つのユーザー音色を、各音色グループにあるグレーのボタンに移して使うことができます。

1 ボイスメニューのボタン①を押しながら、ボイスメニューを移したい音色グループにあるボタン②を押します。



ランプが点灯します。



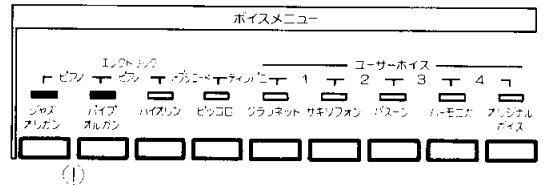
グレーのボタンのランプが点滅し、「ジャズオルガン」の音色がオーケストラボイス(上鍵盤)のグレーのボタンに移ったことを示します。

操作はこれだけです。

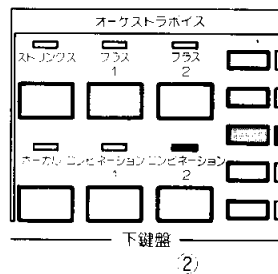
- ▶ボイスメニューの音色は、各音色グループにあるグレーのボタンに移して使います。(下のパネル図参照)
- ▶ボイスメニューのどの音色を、どの音色グループに移してもかまいません。

上の段にある音色を移す場合は…

左の操作を行うとき、ボイスメニューの移したい音色の下にあるふたつのボタン①を同時に押しながら、グレーのボタン②を押します。



ランプが点灯します。



グレーのボタンのランプが点滅し、「ピアノ」の音色がオーケストラボイス(上鍵盤)のグレーのボタンに移ったことを示します。

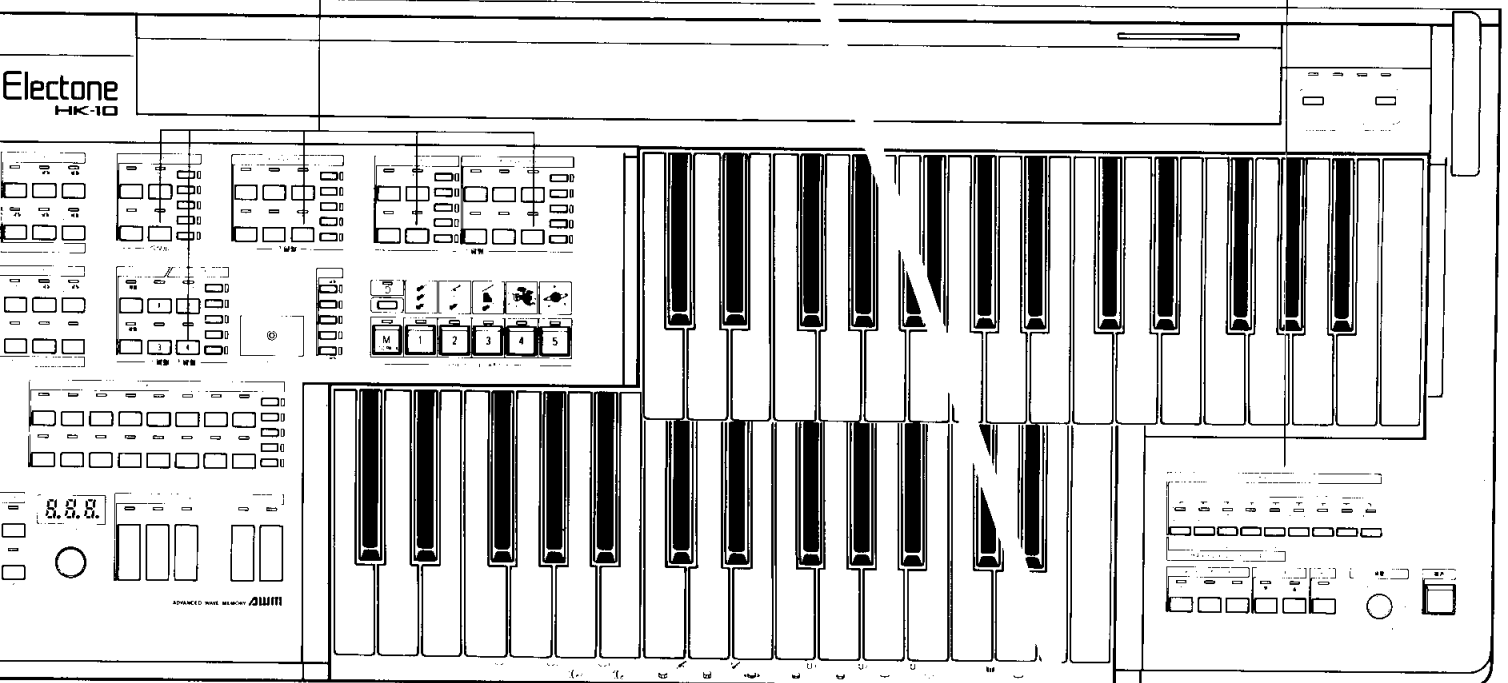
ボイスメニューに関するボタン

グレーのボタン

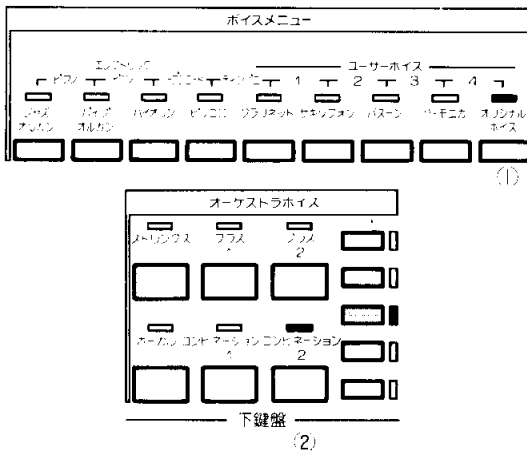
ボイスメニューの音色を移せるのは、各音色グループにある、このグレーのボタン。

ボイスメニュー

左のグレーのボタンに音色を移して使うことができます。



オリジナルボイスについて



オリジナルボイスのボタン①を押しながらグレーのボタン②を押せば、移した音色をキャンセルし、パネルに表示されている音色に戻すことができます。

ボイスメニューに関する細かい説明

[ユーザーボイスについて]

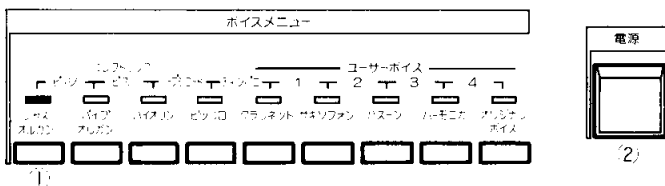
★ボイスメニューのユーザーボイス1～4には、あらかじめ下記の音色がセットされています。

ユーザーボイスの番号	1	2	3	4
音色名	シンセプラス	バンフルート	ジャズギター	エレクトリックベース2

ただし、パック機能を使ってHS-5のデータを移した場合(→29ページ)は、パックにメモリーされているユーザー音色(HS-5のマルチメニュー⑤<ボイスエディット>にあるユーザーボイス1～4の音色)に入れ替わります。

★ユーザーボイスにあらかじめセットされている4つの音色(上の表の1～4の音色)は、HSシリーズのボイスメニューにある同じ名前の音色と同じです。

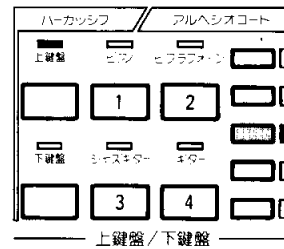
[パワーオンリセット]



★ユーザーボイスの1～4の音色をfromパックの操作によりHS-5のユーザー音色に変更した後、再びもとの状態に戻したい場合は、電源のスイッチをいったん切り、ボイスメニューの一番左にあるジャズオルガンのボタン①を押しながら、電源のスイッチ②をONにしてください。(ただし、この操作を行うと、レジストレーションメモリーやオートリズムのユーザー1・2、ユーザーフィルインのデータも、あらかじめセットされていたデータに戻りますので、注意してください。)

パーカッシブ音色を移すときは…

かならずパーカッシブの上鍵盤または下鍵盤のボタンがONの状態、ボイスメニューの音色をグレーのボタンに移す操作を行ってください。



[グレーのボタンに移した音色の確認]

★グレーのボタンを押すと、そのボタンに移したボイスメニュー音色のランプが点灯し、どの音色が移されているかを確認することができます。なお、ボイスメニューの音色が移されていない場合は、オリジナルボイスのランプが点灯します。

[ボイスメニューの音色をメモリーする使い方]

★グレーのボタンに何の音色を移しているかという情報は、レジストレーションメモリー1～5のボタンのそれぞれに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションを記憶させるとき、いろいろなボイスメニューの音色を移してみましょう。レジストレーションメモリーの数字ボタンを押し変えるだけで、グレーのボタンに移した音色が切り換わり、とても便利です。

[ボイスメニューの使用にあたって]

★2つ以上のグレーのボタンに、同じ音色を移すこともできます。

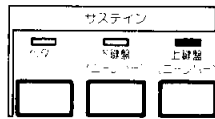
★リードボイスとベースボイスに移した音色は、単音で得られます。

★ボイスメニューの音色は、移した音色グループによって感じが変わることもあります。

1 サステイン

音に余韻をつける効果です。余韻の長さはサステイン/ビブラート・デプスで設定します。

1 たとえば、上鍵盤の音色にサステインをかけてみましょう。パネルで上鍵盤の音色をセットし、サステインの上鍵盤のボタンをON。

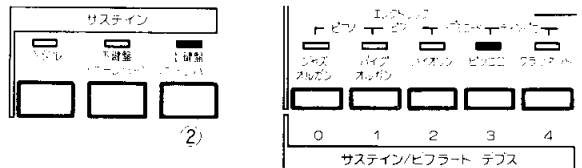


- ▶ ボタンはいくつでもONにすることができます。
- ▶ リードボイスにはサステインがかからないようになっています。

3 上鍵盤を弾いてみましょう。(鍵盤から指を離れたあと、セットした長さのサステインがかかります。)

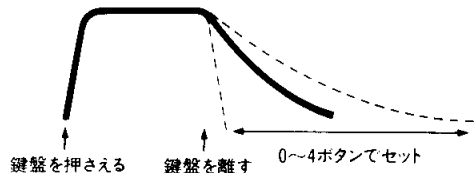
- ▶ セットしたサステインのデータは記憶されますから、パネルにあるサステインの各ボタンをONにすることで、いつでもセットした長さのサステインがかかります。
- ▶ 下鍵盤・ペダル鍵盤のサステイン効果も、同様の操作によってかけることができます。

2 サステイン(余韻)の長さをセッ。



サステイン/ビブラート・デプスの0~4のうちひとつのボタン①を押しながら、サステインの上鍵盤のボタン②を押します。

▶ ②のランプが点滅し、サステインの長さが①の数字の長さでセットされたことを示します。



サステインに関する細かい説明

[サステインの長さの確認]

★サステインのボタンを押さえている間は、サステイン/ビブラート・デプスのいずれかひとつのボタンが点灯します。そのランプが示す長さが、押しているボタンのサステインの長さです。

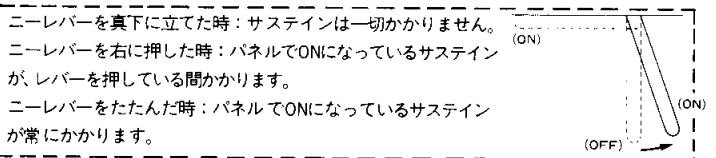
[ニーレバーによるコントロール]

★下鍵盤の下にあるニーレバーを使えば、上鍵盤と下鍵盤のサステインのON/OFFを、任意にコントロールすることができます。まず、サステイン/ビブラート・デプスでサステインの長さをセットし、パネルにあるサステインの上鍵盤(ニーレバー)と下鍵盤(ニーレバー)のボタンをONにしてください。

[サステインの使用にあたって]

★サステイン/ビブラート・デプスでセットしたサステインは、各音色グループのグレーのボタンに移したボイスメニューの音色にもかかります。

★サステイン/ビブラート・デプスでセットしたサステインのデータは電源をOFF(またはパネルのサステインをOFF)にしても保持されます。(保持期間は最低1週間)



効果に関するボタン

サステイン

音に余韻をあたえる効果。

ビブラート

音をふるわせる効果。

トレモロ/シンフォニック

音に広がりをもたせる効果。

グライド

音程を一時的に半音下げ、徐々に元の音程に戻す効果。(フットスイッチを使用)

サステイン/ビブラート・デプス

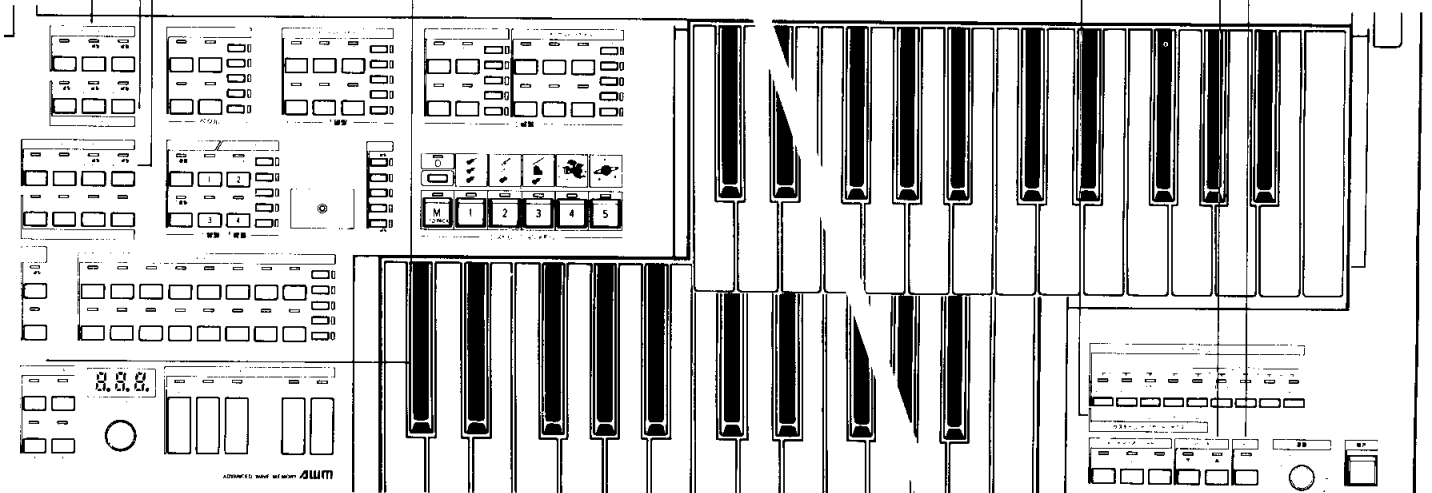
サステインの余韻の長さやビブラートの深さをセッ。

ピッチ

音程の微調整。

タッチトーン

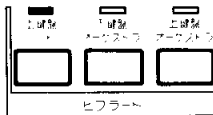
これをONにすると、鍵盤タッチによって音量と音色を微妙にコントロールできます。



2 ビブラート

上鍵盤のリードボイスとオーケストラボイス、下鍵盤のオーケストラボイスには、あらかじめビブラート効果が組みこまれています。自分でデプス(深さ)をセットすることもできます。

1 たとえば、リードボイスにビブラート効果をかけてみましょう。パネルでリードボイスをセットし、ビブラートの上鍵盤リードのボタンをON。

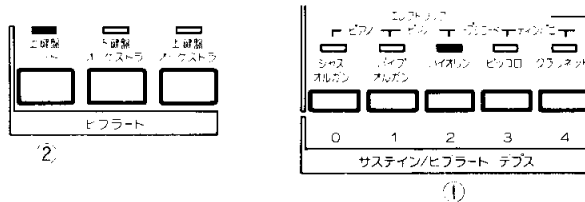


▶ ボタンはいくつでもONにすることができます。

3 上鍵盤を弾いてみましょう。(セットした深さのビブラートがかかります。)

- ▶ セットしたビブラートのデータは記憶されますから、パネルにあるビブラートの各ボタンをONにすることで、いつでもセットしたビブラートが得られます。
- ▶ 上鍵盤のオーケストラボイス、下鍵盤のオーケストラボイスのビブラート効果も、同様の操作によってかけることができます。

2 ビブラートのデプス(深さ)をセット。



サステイン/ビブラート・デプスの0~4のうちひとつのボタン①を押しながら、ビブラートの上鍵盤リードのボタン②を押します。

▶ 0を選ぶとビブラートはかからなくなり、4を選ぶとビブラートが最も深くかかようになります。

ビブラートに関する細かい説明

(ビブラートの深さの確認)

★ビブラートのボタンを押さえている間は、サステイン/ビブラート・デプスのいずれかひとつのボタンが点灯します。そのランプが示す深さが、押しているボタンのビブラートの深さです。

(ビブラートについて)

★ビブラート効果は、音色によってはかからないものがあります。

(ビブラートの情報の保護)

★サステイン/ビブラート・デプスでセットしたビブラートの情報は、電源をOFF(またはパネルのビブラートをOFF)にしても保持されます。(保持期間は最低1週間)

3 トレモロ/シンフォニック

上鍵盤および下鍵盤のオーケストラボイスに、広がりをもたせることができます。

1 上鍵盤または下鍵盤のオーケストラボイスをセット。

3 トレモロまたはシンフォニックを入れ、鍵盤を弾いてみましょう。



〈トレモロ〉
音がうねり、ひろがり
のある響きになります。



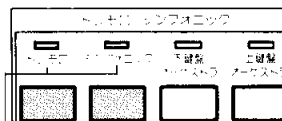
〈シンフォニック〉
多くの楽器で合奏して
いるような豊かな響き
になります。

2 トレモロ/シンフォニックの上鍵盤オーケストラまたは下鍵盤オーケストラのボタンをON。



トレモロ/シンフォニックに関する細かい説明

(コーラス効果)



両方ともOFFに。

★トレモロとシンフォニックのボタンを2つともOFFにすると、トレモロ効果よりも音がゆるやかにうねるコーラス効果をかけることができます。

4 グライド(リード)

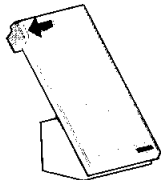
リードボイスの音程を半音下げ、徐々に元の音程に戻す効果です。(フットスイッチで操作します。)

1 リードボイスをセット。

▶ グライドの効果は、リードボイスにのみかけることができます。

3 上鍵盤を弾いてリードボイスの音を出しながらフットスイッチを左に押す。

フットスイッチを押すと、リードボイスの音程が半音下がり、フットスイッチから足を離すと、徐々に元の音程に戻ります。



2 フットスイッチのグライド(リード)のボタンをON。



▶ フットスイッチの動きが、グライド効果のON/OFF機能にセットされます。

グライドに関する細かい説明

[グライド効果について]

★グライド効果を使うと、トロンボーンやギターのスライド奏法のような変化にとんだ表現ができます。

★グライド効果をかけている間は、リードボイスにビブラート効果がかからなくなります。

★グライド効果はリードボイスのグレーのボタンに移したボイスメニューの音色にもかかります。

5 タッチトーン

上・下鍵盤のタッチによって、音量と音色を微妙にコントロールすることができます。

1 タッチトーンのボタンをON。



2 鍵盤を弾き、音量・音色をコントロール。

〈上鍵盤〉イニシャルタッチとアフタータッチの2種類の鍵盤タッチによって変化します。

〈下鍵盤〉イニシャルタッチによって変化します。

タッチトーンに関する細かい説明

[タッチトーンの使用にあたって]

★タッチトーンは、各音色グループのグレーのボタンに移したボイスメニューの音色にも機能します。

★タッチトーンの効き具合は、音色によって異なります。

[イニシャルタッチとアフタータッチ]

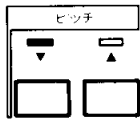
★イニシャルタッチ：鍵盤を押さえるときの強さ(速度)によってコントロールします。強く押さえるほど音量は大きくなり、音色は明るくなります。

★アフタータッチ：鍵盤を押さえた後、さらに鍵盤を押さえる強さによってコントロールします。強く押さえるほど、音量は大きくなり、音色は明るくなります。(パーカッション系と減衰系のベース音色ではコントロールできません。)

6ピッチ

エレクトーン全体のピッチ（音程）を、微調整することができます。

1 ▼または▲ボタンを押して、ピッチを変えます。



〈▼ボタン〉

1回押すたびに、音色が少しずつ下がります。(A₃=440Hzのとき、1ステップ約0.3Hz、最高4ステップ)

〈▲ボタン〉

1回押すたびに、音程が少しずつ上がります。(A₃=440Hzのとき、1ステップ約0.3Hz、最高15ステップ)

2 ノーマルなピッチに戻すときは、▼ボタンと▲ボタンを同時に押します。

- ▶両方のランプが消え、ノーマルなピッチに戻ったことを示します。
- ▶電源をいったんOFFにしても、ノーマルなピッチに戻ります。

ピッチに関する細かい説明

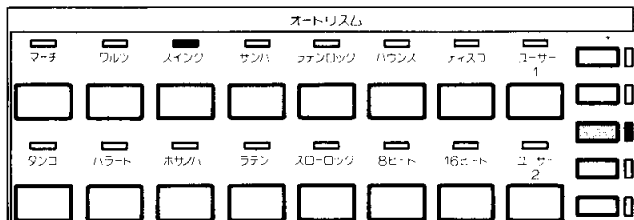
[ピッチの使用にあたって]

- ★ピッチのセットは、レジストレーションメモリーには記憶されません。また、バックの情報としても記憶されません。
- ★▼ボタンまたは▲ボタンを押した時、押したボタンのランプが常に点灯するとは限りません。その時セットされているピッチがノーマルより下の場合、▼ボタンのランプが常に点灯し、ノーマルより上の場合、▲ボタンのランプが常に点灯します。したがって、▼ボタンを押しても▲ボタンのランプが点灯したままになる場合があります。

1 オートリズム

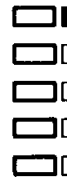
ビート感のあるリアルな打楽器音で、自動的にリズムがきざまれます。また、リズムに変化をつけるフィルインなどの機能もあります。

1 リズムパターンをひとつ選びます。



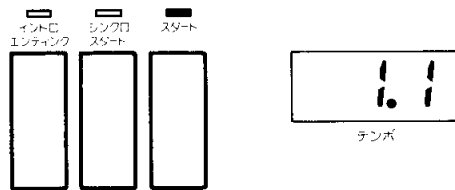
- ▶ マーチから16ビートまでの14のリズムパターン（プリセットパターン）は、HSシリーズのリズムパターンと同じです。
- ▶ プリセットパターンをセットしたいときは、右端にある2つのユーザーボタンをOFFにしてください。ユーザーボタンがONになっていると、プリセットパターンは出てきません。

2 音量をセット。



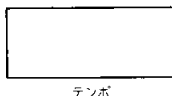
- ▶ 音量は5段階にセットすることができ、一番上（大）で最大になり、一番下（小）でゼロになります。

4 リズムをスタート。



- 〈スタート〉
このスイッチを押すとリズムがスタートし、もう一度押すとストップします。リズムがスタートしてストップするまでの間、ディスプレイにはスタートしてからの小節数（最大99）と小節内の拍数が表示されます。
- 〈シンクロスタート〉
スタートのかわりにこのスイッチを押すと、リズムはすぐにスタートせず、下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえると同時にスタートします。オートベースコードやアルペジオコードを使って伴奏を弾く場合は、このスイッチを使うと便利です。

3 テンポをセット。

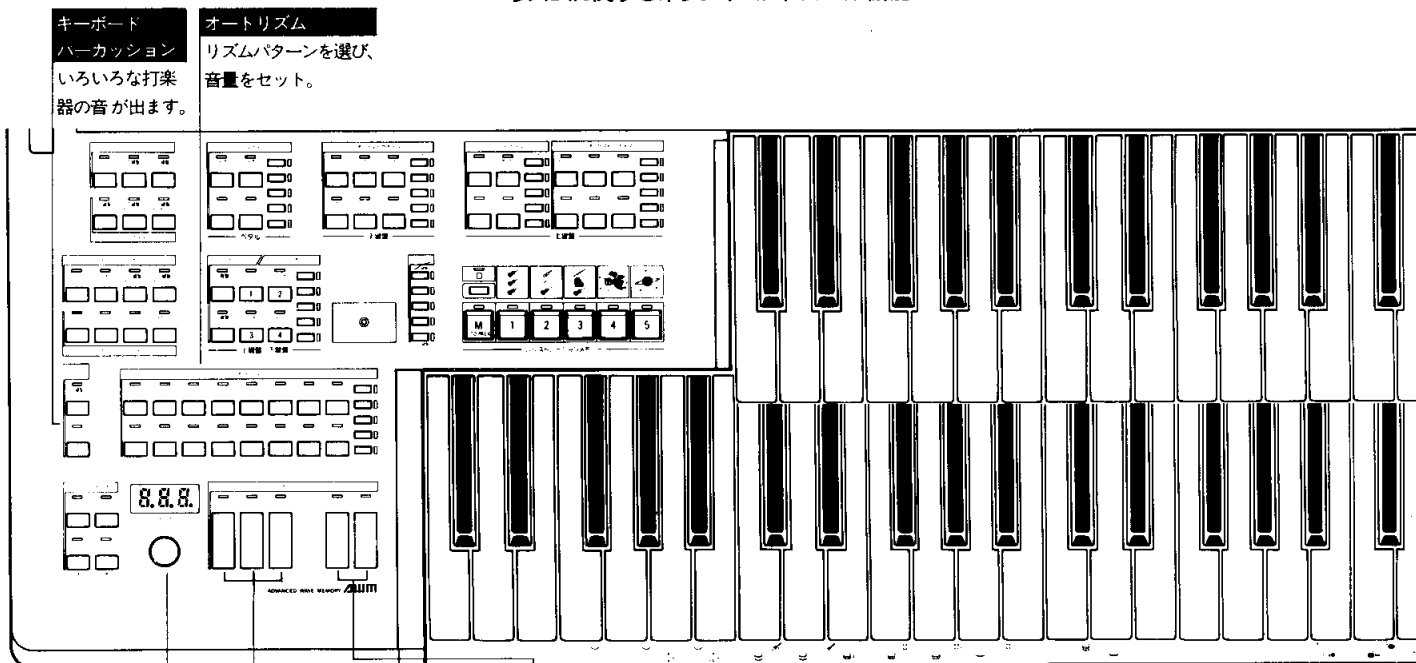


セットしたテンポはディスプレイに表示されます。



- 〈時計回りに回す〉
ディスプレイの数字がひとつずつ増え、テンポが速くなります。（最大:240）
- 〈反時計回りに回す〉
ディスプレイの数字がひとつずつ減り、テンポが遅くなります。（最小:40）

リズムに関するボタンやコントロール機能



テンポコントロール
テンポはここで調節。

スタートとストップの機能
スタート、シンクロスタート、イントロ/エンディングがあります。

フィルイン
リズムに変化をつける機能。

ユーザーパターンについて

オートリズムの右端にあるユーザー1・ユーザー2のふたつのユーザーボタンには、あらかじめ下記のリズムパターンがセットされています。

ユーザーパターンの番号	1	2
リズム名	ワルツのバリエーション	16ビート1

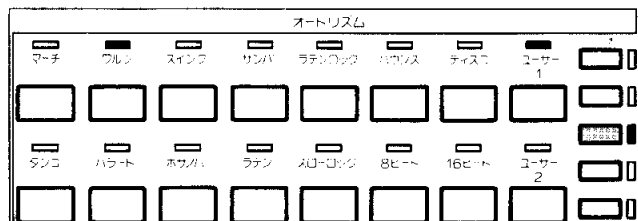
ただし、バック機能を使ってHS-5のデータを移した場合(→29ページ)は、バックにメモリーされているユーザーパターン(HS-5のR.P.P.で登録したユーザーパターンのうちレジストレーションメモリー1~5のパターン)に入れ替わります。

- ▶ユーザーパターンにあらかじめセットされた2つのリズムパターンは、HSシリーズのリズムメニューにある下記のリズムパターンと同じです。
ユーザーパターン1：ワルツ (バリエーションON)
ユーザーパターン2：16ビート1 (バリエーションOFF)
- ▶ユーザーパターン1・2にあらかじめセットされているリズムパターンは、レジストレーションメモリーの5つのボタンのそれぞれにセットされていますので、1~5のどのレジストレーションメモリーのボタンを選んでも、同じリズムパターンが出てきます。

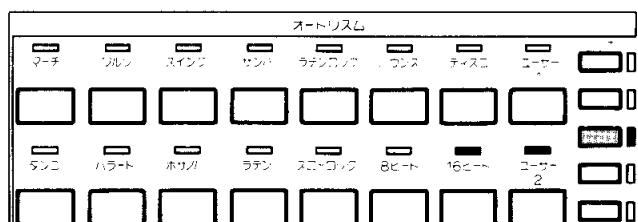
ユーザーパターンを使う場合は…

ユーザーパターンを選んだときに、フィルイン、イントロ/エンディング、アルペジオコード(またはオートベースコード)を使って演奏する場合、それらはすべてユーザーパターンではなく、そのとき点灯になっているプリセットパターンに連動します。したがってユーザーパターンを使って自動演奏するときは、プリセットパターンを下記のようにセットしてください。

ユーザーパターン1 (ワルツのバリエーション) の場合



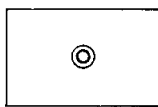
ユーザーパターン2 (16ビート1) の場合



- ▶バック機能を使ってHS-5から移したユーザーパターンのリズムを使う場合は、そのとき使うユーザーパターンに近いプリセットパターンをセットしてください。

オートリズムに関する細かい説明

[テンポランプ]



テンポ

- ★パーカッション/アルペジオコードとバランスの間にあるテンポランプは、テンポコントロールでセットしたテンポに応じて点滅します。

〈リズムがスタートしているとき〉

リズムの小節の1拍目ごとに点滅します。リズムと演奏のタイミングを合わせたいときに見てください。

〈シンクロスタートをONにして、リズムをまだスタートさせていないとき〉

4分音符の単位で点滅します。演奏をはじめる前に、メトロノームのかわりとして、テンポを目で確認してください。(フットスイッチでリズムをストップしているときも同様です。)

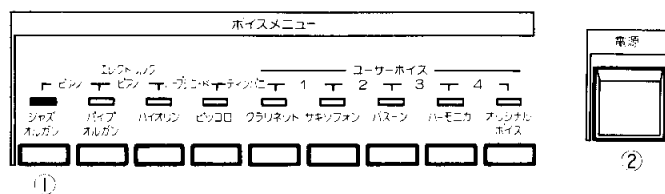
[フットスイッチによるコントロール]

- ★リズムのストップ/スタートは、エクスプレッションペダルの左に付いているフットスイッチの操作によってコントロールすることができます。操作方法は19ページをお読みください。

[リズムパターンと伴奏パターンの関係]

- ★アルペジオコードでは、選んだリズムパターン(プリセットパターン)にふさわしい伴奏パターンが自動的に出るようになっています。(オートベースコードによるベース伴奏も同様です。)

[パワーオンリセット]

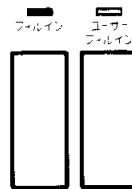


- ★ユーザー1・ユーザー2のリズムを、フットバックの操作によりHSシリーズのユーザーパターンに変更した後、再びもとの状態に戻したい場合は、電源のスイッチをいったん切り、ボイスメニューの一番左にあるジャズオルガンのボタン①を押しながら、電源のスイッチ②をもう一度ONにしてください。(ただし、この操作を行うと、レジストレーションメモリーやボイスメニューの1~4、ユーザーフィルインのデータも、あらかじめセットされていたデータに戻りますので、注意してください。)

1 リズムをスタート。

リズムのパターン、音量、テンポなどをセットして、リズムをスタートさせてください。

2 フィルインをON。



▶フレーズの切れ目などで、フィルインを押してください。スイッチを押すと、リズムパターンがフィルインのパターンに切り替わります。フィルインは、その小節の終わりまで続き、次の小節からは元のリズムパターンに戻ります。

フィルインに関する細かい説明

〔ユーザーフィルイン〕

★このスイッチには何もパターンが登録されていません。この状態で、ユーザーフィルインのスイッチをリズム進行中に使えば、リズム音（およびアルペジオコード・オートベースコード）が発音しないブレイクとして使えます。ただし、バック機能を使ってHS-5のデータを移した場合（29ページ参照）は、HS-5で登録したユーザーフィルインのパターンに入れ替わります。

〔パワーオンリセット〕

★ユーザーフィルインのリズムをフロムポップの操作によりHS-5のユーザーパターンに変更した後、再び何も登録されていない状態に戻りたい場合は、電源のスイッチをいったん切り、ボイスメニューの一番左にあるジャズオルガンのボタンを押しながら、電源のスイッチをもう一度ONにしてください。（ただし、この操作を行うと、レジストレーションメモリーやボイスメニューの1～4、リズムのユーザー1・2のデータもあらかじめセットされていたデータに戻りますので、注意してください。）

〔フィルインを2小節以上続けたい場合〕

★フィルインはスイッチを押してすぐに離すと最長1小節発音しますが、スイッチを押し続ければ、2小節以上にわたってフィルインパターンを発音させることができます。

〔フィルインをイントロの替わりとして使うには〕

★リズムをスタートさせる前に、フィルインのスイッチを押してONにしておけば、フィルインパターンをイントロの替わりとして使うことができます。

〔伴奏パターンとの関連について〕

★フィルインのパターンが発音している間は、アルペジオコードのパターンとオートベースのベースパターンも連動して一緒に変化するようになっています。

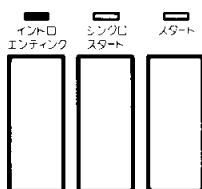
〔フットスイッチによるコントロール〕

★フィルイン（およびユーザーフィルイン）は、エクスプレッションペダルの左に付いているフットスイッチの操作によってコントロールすることができます。操作方法は19ページをお読みください。

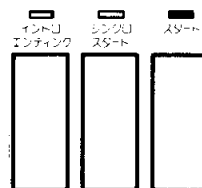
イントロ/エンディング

イントロやエンディングのリズムパターンを変化させるボタンです。

1 リズムをスタートさせる前にリズムパターン、ボリューム、テンポをセットし、イントロ/エンディングをON。

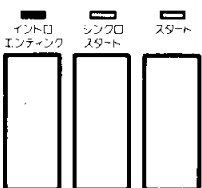


2 リズムをスタート。



▶スタートスイッチを押すと、1小節のイントロパターンが発音し、その後リズムがスタートします。イントロパターンも、各リズムのパターンにふさわしいパターンが出るようになっています。

3 曲の終わりから2小節目で、イントロ/エンディングをON。



▶リズムをスタートさせた後、イントロ/エンディングのスイッチを押すと、リズムパターンがエンディングパターンに切り替わります。エンディングパターンは2小節の長さですから、曲の最後から2小節目の先頭でスイッチを押してください。
▶エンディングパターンが終わると、リズムは自動的にストップします。

イントロ/エンディングに関する細かい説明

〔伴奏パターンとの関連について〕

★エンディングのパターンが発音している間は、アルペジオコードのパターンとオートベースコードのベースパターンも連動して一緒に変化するようになっています。

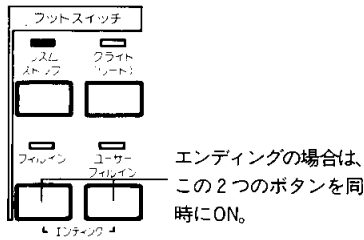
〔フットスイッチによるコントロール〕

★エンディングは、エクスプレッションペダルの左に付いているフットスイッチの操作によってコントロールすることができます。操作方法は19ページをお読みください。

フットスイッチによるリズムコントロール

リズムのストップ/スタート、エンディングやフィルイン(およびユーザーフィルイン)は、パネルのスイッチによる操作以外にも、エクスペッションペダルの左に付いているフットスイッチによってコントロールすることができます。(フットスイッチでは、リズムコントロール以外にグライド効果もコントロールできます。→14ページ)

1 フットスイッチのボタンで機能を選びます。



〈各ボタンで次のようなコントロールができます。〉

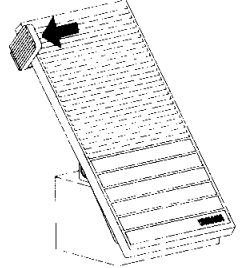
リズムストップ	フットスイッチを押すとリズムがストップし、もう一度押すとスタート。
フィルイン	フットスイッチを押すとフィルインパターンが発音。
ユーザーフィルイン	フットスイッチを押すと、その小節の終わりまでブレイクになる。(バック機能などを使ってHS-5のエレクターンのデータを移した場合は、HS-5のユーザーフィルインのパターンが発音。)
エンディング	フットスイッチを押すと、エンディングパターンに切り替わり、そのあとリズムがストップ。

※グライド効果に関しては14ページをお読みください。

2 リズムをスタート。

3 フットスイッチを左に押しします。

演奏しながら、エクスペッションペダルの左に付いているフットスイッチを、つま先で左に押ししてください。フットスイッチのボタンで選んだ機能が働きます。



フットスイッチに関する細かい説明

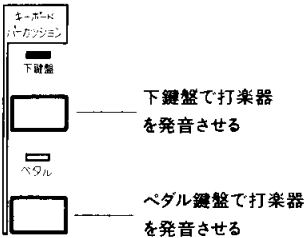
[フットスイッチのリズムストップについて]

★フットスイッチを押してリズムをストップさせると、リズムストップのランプが点滅をはじめ、リズムストップ状態になります。もう一度フットスイッチを押してリズムを再スタートさせると、ランプは点灯に戻ります。また、フットスイッチを押してリズムをストップさせている間に、イントロ/エンディングのスイッチをONにして、もう一度フットスイッチを押せば、1小節のイントロのパターンを出すことができます。

2 キーボードパーカッション

下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえることによって、さまざまな打楽器音を発音させることができます。

1 キーボードパーカッションのボタンをON。

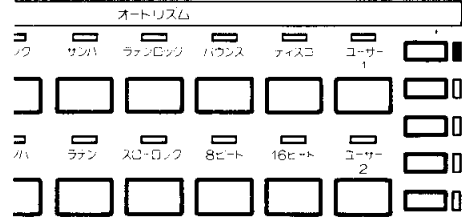


オートリズムの左側にあるキーボードパーカッションのボタン(下鍵盤とペダル)をONにしてください。どちらか一方をONにすることもできます。

3 下鍵盤、ペダル鍵盤を押さえてみましょう。

どの鍵盤にどの打楽器が対応しているかは、下鍵盤の下に表示されている打楽器の図を見てください。

2 音量をセット。



キーボードパーカッションの音量は、リズムの音量でコントロールします。

キーボードパーカッションに関する細かい説明

(他の音色とのアンサンブル)

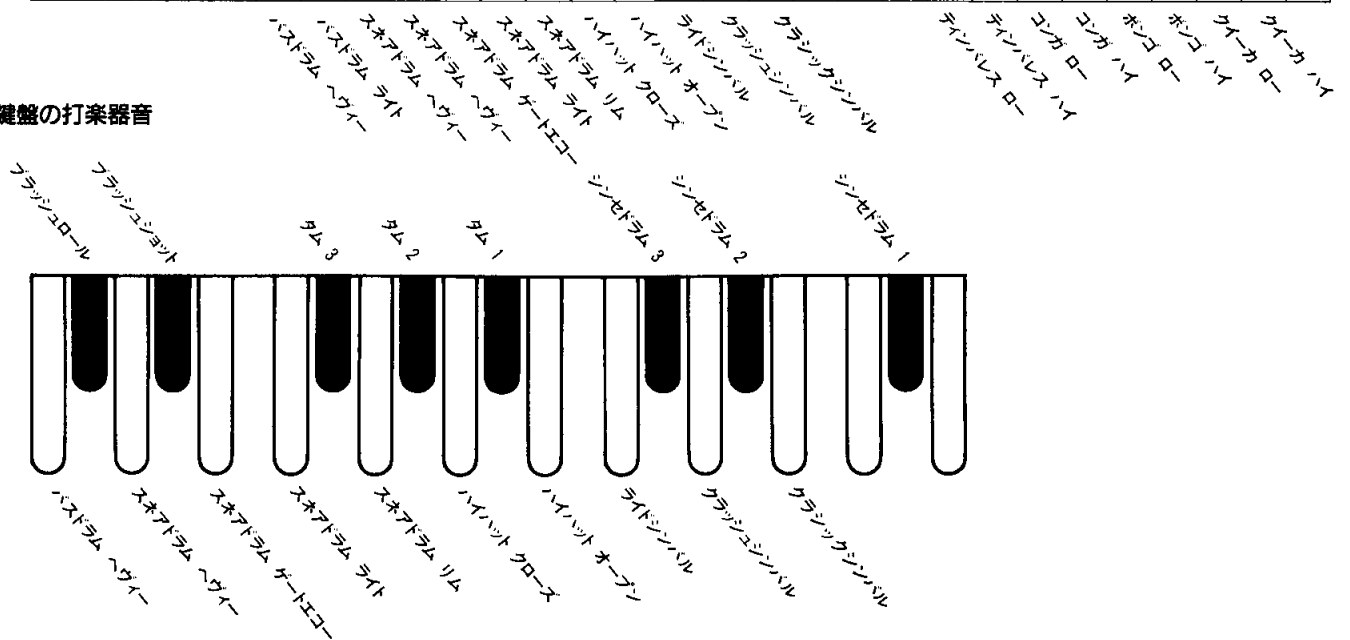
★下鍵盤とペダル鍵盤の音色をセットすれば、鍵盤を押さえることで、キーボードパーカッションの音と一緒に発音させることができます。また、キーボードパーカッションの音だけを発音させたい場合は、各音色をOFFにしてください。(タッチコントロール)

★下鍵盤を押さえるときのイニシャルタッチによって、打楽器音の音量を微妙にコントロールすることができます。このタッチコントロールは、パネルの右側にあるタッチトーンのボタンのON/OFFとは関係なく働きます。

下鍵盤の打楽器音



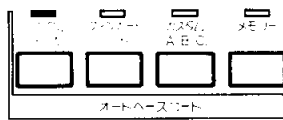
ペダル鍵盤の打楽器音



1 オートベースコード

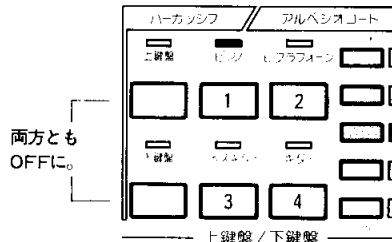
下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏が自動的に演奏できる機能。シングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA.B.C.の3種類があります。

1 オートベースコードのモードをひとつON。



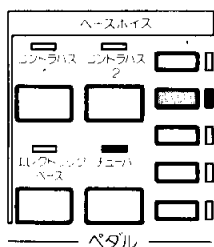
この3つのボタンからセレクト。

2 アルペジオコードをセット。

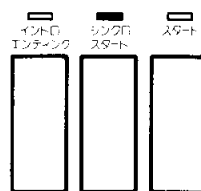


必要に応じて、アルペジオコード以外の下鍵盤の音色もセットしてください。

3 ペダル鍵盤の音色をセット。



4 リズムセクションをセット。



リズムパターンを選び、音量、テンポをセットしてから、シンクロスタートをONしておきましょう。リズムと自動伴奏を同時にスタートさせることができ、とても便利です。

演奏補助機能に関するボタン

シングルフィンガー

下鍵盤をひとつ押さえるだけで、コードとベースの自動伴奏が出ます。

フィンガードコード

和音を押さえる自動伴奏。コード奏法になれている人には便利です。

カスタムA.B.C.

下鍵盤とペダル鍵盤で別々に自動伴奏が出ます。

メモリー

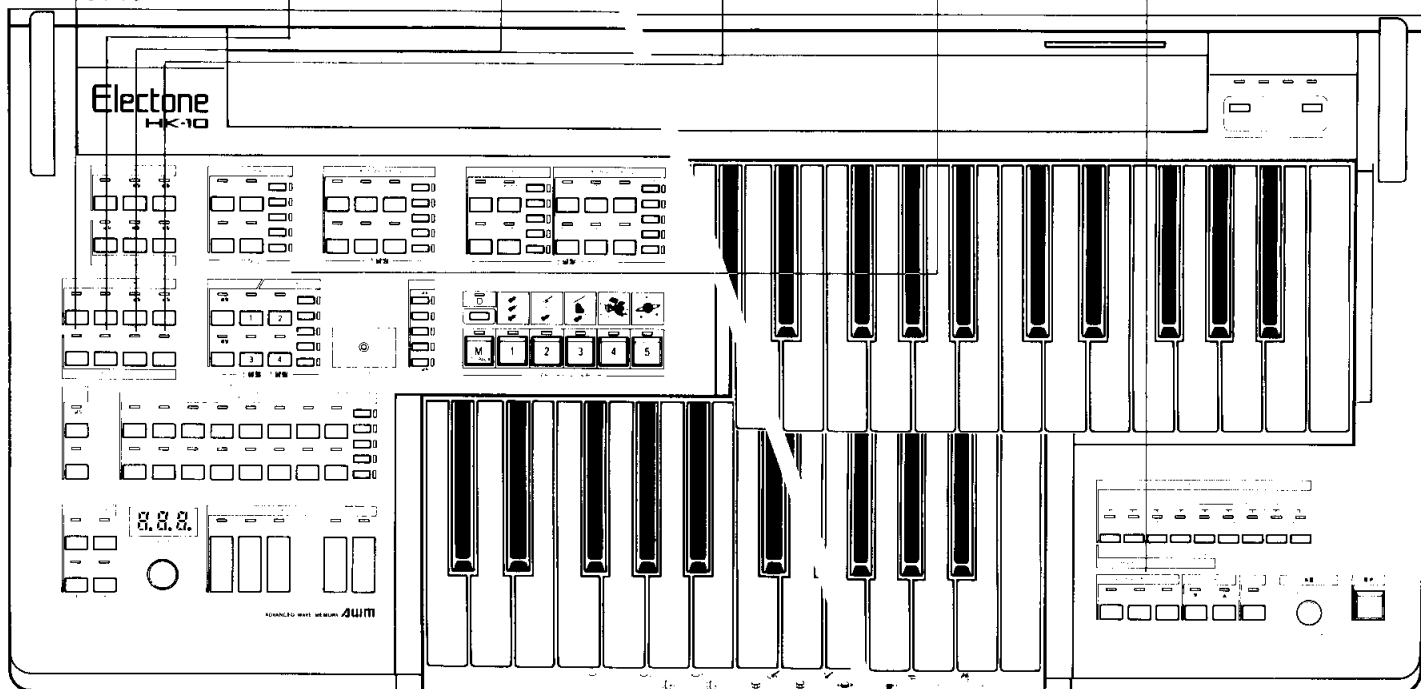
これをONにすると、下鍵盤を離しても伴奏が鳴り続けます。

アルペジオコード

伴奏パターンが選べます。

メロディーオンコード

上鍵盤のメロディーにハーモニーが重なります。



5 選んだモードのやり方で、伴奏を演奏してみましょう。

〈シングルフィンガーを選んだ場合〉

下鍵盤を次のように押さえることで、4つのタイプのコードが検出され、コードとベースの自動伴奏が得られます。

メジャーコード：コードの根音をひとつ押さえる。(右の例：C)



マイナーコード：コードの根音と、それより左側の黒鍵を同時に押さえる。(右の例：Cm)



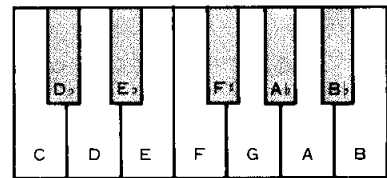
セブンスコード：コードの根音と、それより左側の白鍵を同時に押さえる。(右の例：C7)



マイナーセブンスコード：コードの根音と、それより左側の黒鍵と白鍵を同時に押さえる。(右の例：Cm7)



ノート：下鍵盤とコードの根音の位置関係は右のようになります。



〈フィンガードコードを選んだ場合〉

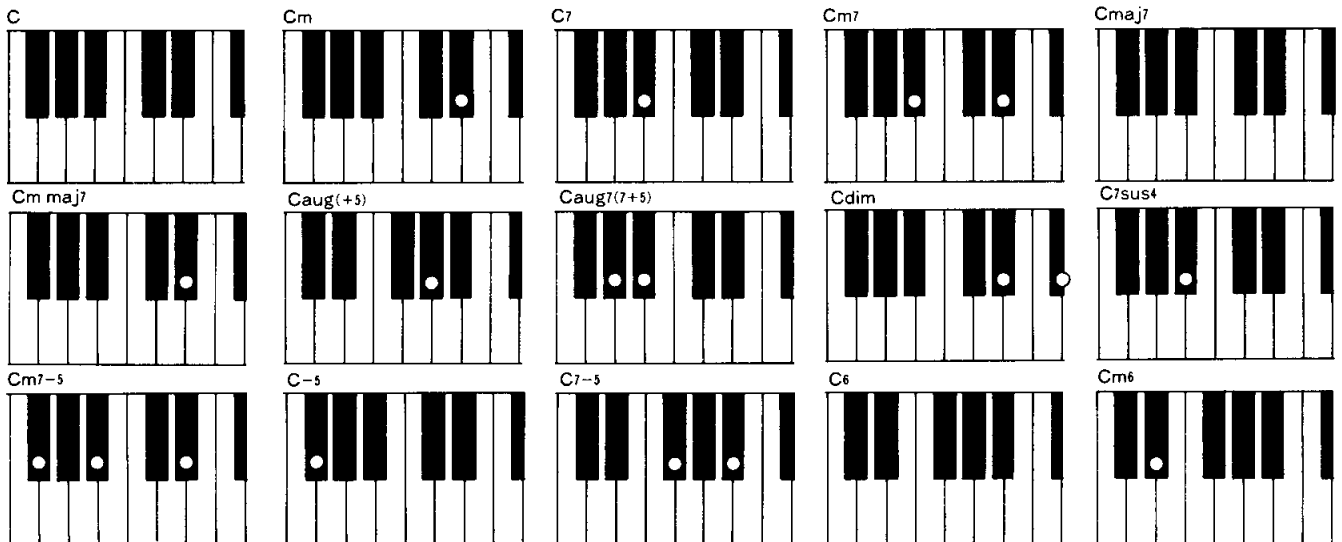
下鍵盤でコード（和音）を押さえるだけで、そのコードにふさわしいベース伴奏が自動的に出てきます。

〈カスタムA.B.C.を選んだ場合〉

下鍵盤でコードを押さえ、ペダル鍵盤を1音押さえるだけで、ベース伴奏が自動的に出てきます。(ベース伴奏は、下鍵盤で押さえたコードのタイプとペダル鍵盤で押さえた音に基づいて検出されます。)

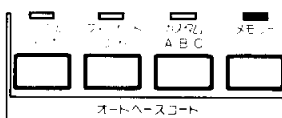
フィンガードコード、カスタムA.B.C.で検出されるコード

フィンガードコードまたはカスタムA.B.C.を使っているときは、右の15種類のコードタイプが検出され、そのコードに応じたベース伴奏が自動的に出てきます。(すべてCを根音とするコードネームで表記)



メモリー ————— このボタンをONにすると、下鍵盤から指を離した後も、和音伴奏とベース伴奏がリズムと一緒に鳴り続けます。

1 メモリーのボタンをON。



▶カスタムA.B.C.を選び、メモリーのボタンをONにしたときは、ベース伴奏だけにメモリーの機能が関係するようになっていきます。

2 下鍵盤を押さえ、すぐに指を離してみましょう。

▶下鍵盤から指を離した後も、コードとベースの自動伴奏が、リズムと一緒に鳴り続けます。コードを変えるときだけ、下鍵盤を押さえ直してください。

オートベースコードに関する細かい説明

[オートベースコードのベースパターンについて]

- ★オートベースコードで自動的に発音するベース伴奏のパターンは、各リズムパターン（プリセット）に連動したベースパターンが出てきます。
- アルペジオコードのパターンを変えると、ベースパターンもそれにふさわしいパターンに変わります。
- プリセットのフィルインまたはエンディングを発音させている間は、ベースパターンも変化します。
- 下鍵盤で弾いたコードのタイプによってもベースパターンは変化します。
- リズムのユーザーパターン（ユーザー1、ユーザー2）をONにしているときのベースパターンは、そのときランプが点灯しているプリセットパターンに連動したベースパターンになります。
- ユーザーフィルインを機能させている間は、ベース音は発音しないようになっています。

[オートリズムを使わない自動伴奏]

リズムをスタートさせなくても、自動伴奏機能を使うことができます。シングルフィンガーを選んでいるときは、コードとベース音が自動的に発音され、フィンガードコードを選んでいるときは、ベース音が自動的に出てきます。ただし、リズムに連動して働くアルペジオコードは発音しません。また、ベース音はパターンがきざまれません。

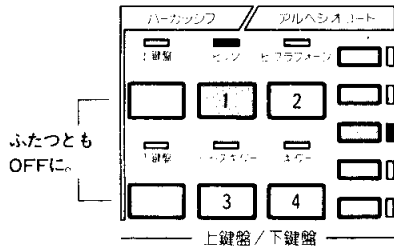
[シングルフィンガー使用上の注意]

- ★シングルフィンガーでは、下鍵盤のどの音域の鍵盤を押さえても、実際に発音する自動伴奏の音域は変わらないようになっています。
 - ★下鍵盤をレガートに弾くと、正しくコードが切り替わらない場合があります。コードを切り替える時は、いったん鍵盤から指を離すようにしてください。
- [オートベースコードの使用にあたって]
- ★シングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA.B.C.の選択データは、レジストレーションメモリーに記憶させることができます。
- [メモリーの使用にあたって]
- ★メモリーはリズムに連動して機能するようになっています。必ず、リズムと一緒に使うようにしてください。
 - ★メモリーは、オートベースコードをOFFにしている時でも、リズムさえスタートしていれば機能します。下鍵盤の伴奏を鳴らし続けている間に、左手でパネルを操作したり、両手で上鍵盤を弾きたい時などに活用してください。

2 アルペジオコード

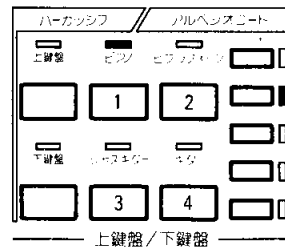
下鍵盤で弾いた音にもとづいて、リズムに連動した伴奏パターンが自動的に出てきます。伴奏パターンは、それぞれのリズムパターンに対して4つつあります。

1 パーカッシブ/アルペジオコードの上鍵盤/下鍵盤のボタンを両方ともOFF。



- ▶上鍵盤・下鍵盤のどちらかがONになっていると、パーカッシブの機能が選ばれた状態になります。
- ▶パーカッシブとアルペジオコードの切り替えについては、7ページをお読みください。

2 伴奏パターンをひとつ選び、ボリュームをセット。



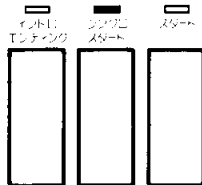
〈1・2のパターン〉

おもにリズムに連動してきざまれるコード伴奏(リズムック)のパターンを選ぶことができます。

〈3・4のパターン〉

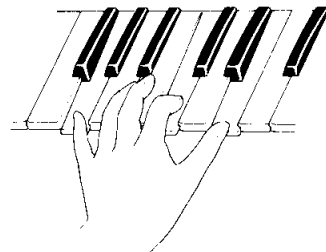
おもにリズムに連動した分散和音の伴奏(アルペジオ)のパターンを選ぶことができます。

3 シンクロスタートをON。



- ▶シンクロスタートを入れるかわりに、スタートを押してリズムをスタートさせてもかまいません。

4 下鍵盤で和音を押さえてみましょう。



下鍵盤を押さえ続けるだけで、リズムに連動した伴奏パターンが自動的に出てきます。

アルペジオコードに関する細かい説明

[アルペジオコードのパターンと音色]

- ★アルペジオコードの1・2・3・4では、各リズムパターンにふさわしいパターンが得られるようになっています。また、アルペジオコードの音色も、各リズムパターンにふさわしい音色が、それぞれプリセットされています。

[オートリズムとの関係について]

- ★アルペジオコードの伴奏パターンはリズムに連動して働くようになっていますから、必ずオートリズムを一緒に使ってください。

[オートベースコードと一緒に使うと]

- ★アルペジオコードとオートベースコードを一緒に使うと、リズムに連動した伴奏をより簡単に出すことができます。また、オートベースコードのメモリーをONにすれば、下鍵盤から指を離れた後もアルペジオコードの音が鳴り続けます。(→21~23ページ)

[ベースパターンとの関係]

- ★オートベースコードと一緒に使っているとき、アルペジオコードのパターンを変えると、ベースパターンも変わります。

[フィルイン・エンディングによるパターン変化]

- ★リズムのフィルインまたはエンディングが発音している間は、アルペジオコードのパターンも変化します。また、ユーザーフィルインをONにしたときは、アルペジオコードもブレイクになります。(→18ページ)

[コードのタイプによるパターン変化]

- ★下鍵盤で弾いた和音のタイプによっても、アルペジオコードのパターンは変化します。

[アルペジオコードの音を出したくない場合]

- ★下鍵盤の伴奏を弾くときにアルペジオコードの音を出したくない場合は、アルペジオコードの音量を0(一番下のボタン)にセットします。

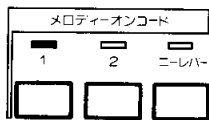
[リズムのユーザーパターンを使っているときのアルペジオコードパターン]

- ★リズムのユーザーパターンには、アルペジオコードのパターンは連動しないようになっています。アルペジオコードのパターンは、そのとき点灯になっているプリセットのリズムパターンに対応したパターンになります。(→17ページ)

3 メロディーオンコード

上鍵盤のメロディーにハーモニーが自動的に重なり、厚みのあるメロディー演奏が楽しめます。

1 メロディーオンコードのボタン(1または2)をON。



〈1のボタン〉
最高2音までのハーモニーがメロディーに重なります。

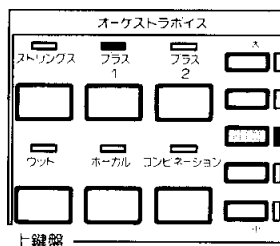
〈2のボタン〉
最高3音までのハーモニーがメロディーに重なります。

3 下鍵盤で和音を押さえ、上鍵盤でメロディーを弾きましょう。



▶メロディーの下に、ハーモニーが自動的に重なり、厚みのあるメロディー演奏ができます。

2 上鍵盤のオーケストラボイスをセット。



ハーモニーの音色として、上鍵盤のオーケストラボイスをセットします。リードボイスは、メロディーラインを弾く音色としてセットしてください。また、下鍵盤の音色もセットしましょう。

メロディーオンコードに関する細かい説明

〔オートベースコードと一緒に使うと〕

★オートベースコードのシングルフィンガー、フィンガード、カスタムA.B.C.のいずれかをONにすると、下鍵盤から出てくる和音の音がハーモニーの音として上鍵盤からも出てきます。

また、メモリーのボタンをONにして、リズムをスタートさせれば、下鍵盤から指を離しても、ハーモニーの音が出てきます。

〔メロディーオンコードの使用にあたって〕

★ハーモニーの音として出てくるのは、上鍵盤のオーケストラボイスの音色です。必ず上鍵盤のオーケストラボイスの音量を、音の出る位置にセットしてください。

★ハーモニーの音は、下鍵盤で弾いた和音の音が検出され、上鍵盤から出てくるようになっています。したがって、ハーモニーの音を出したいときには、下鍵盤で和音を出しながら、上鍵盤を弾いてください。

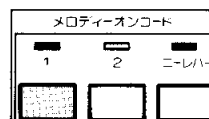
★上鍵盤の低音域でメロディーを弾いた場合は、ハーモニーの音が出ないことがあります。

1と2のボタンを両方ともONにすると…



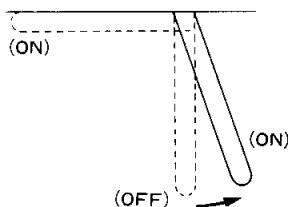
最高3音までのハーモニーが、メロディーよりやや離れた音域から出てきます。

ニーレバーによってもコントロールできます。



ニーレバーのボタンをONにすると、メロディーオンコードのON/OFFをニーレバーでコントロールできるようになります。演奏の途中で、部分的にメロディーオンコードを使いたい場合などに便利です。

ニーコントロールのボタンをONにし、下鍵盤の下にあるレバーを真下に立てると、メロディーオンコードは機能しない状態になります。メロディーオンコードをONにしたい時点で、ニーレバーを右に押ししてください。右に押ししている間だけメロディーオンコードが機能します。



レジストレーションメモリー

パネルでセットしたレジストレーションを記憶させ、それを再現させることができます。(基本レジストレーションの機能も、このボタンを使います。)
(→5ページ)

レジストレーションをメモリーする操作

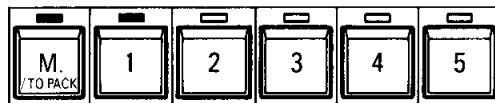
1 記憶させるレジストレーションをパネルでセット。

各鍵盤の音色、リズムのパターンとテンポ、効果など、パネルのほとんどのセッティングを記憶させることができます。(下の図の□が、レジストレーションメモリーに記憶できる機能です。)

〈記憶させることができる機能〉

- 各鍵盤の音色と音量、バランス
- グレーのボタンに移したボイスメニューの音色 (→10~11ページ)
- サステイン、ビブラート、トレモロ/シンフォニック
- サステイン/ビブラートデプスでセットしたサステインやビブラートのかかり具合 (→13ページ)
- リズムのパターンと音量
- リズムのテンポ
- フットスイッチのはたらき
- アルペジオコードのパターンと音量
- キーボードパーカッション
- オートベースコード
- メロディーオンコード
- タッチトーン (ON/OFF)

2 赤いメモリーボタン①を押しながら、数字のボタン1~5のひとつ②を押します。



押したボタンのランプが点滅し、パネルでセットしたレジストレーションが記憶されたことを示します。

メモリー機能に関するボタン

ディセーブル

リズムなどのレジストレーションだけを固定させておきたいときに使います。

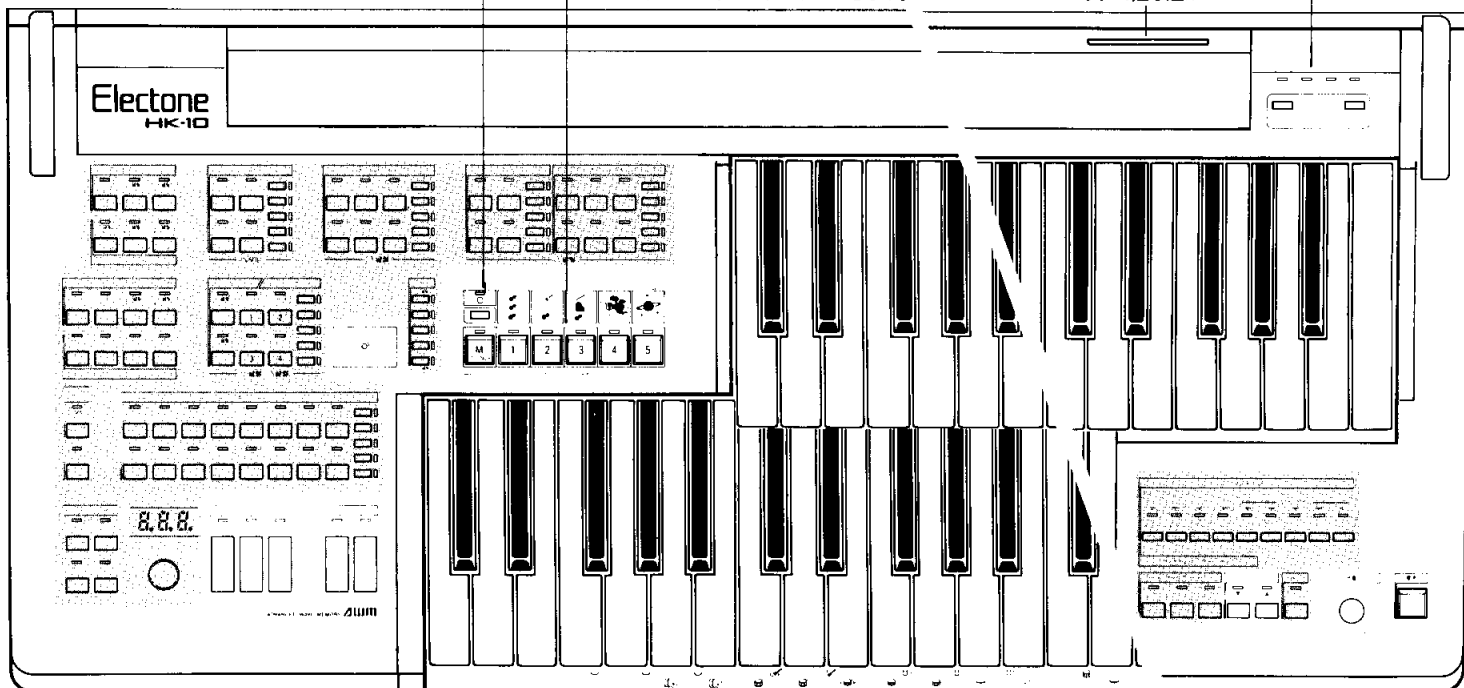
レジストレーションメモリー

レジストレーションのデータバンク。音色やリズムのチェンジがワンタッチでできます。

バック

エレクトーンの情報をストックし、いつでも呼びもどせます。HS-5とのやりとりも可能。

バックの差し込み口



メモリーしたレジストレーションを再現する操作

1 数字ボタン1~5のひとつを押します。



操作はこれだけです。押したボタンのランプが点灯し、そのボタンに記憶されているレジストレーションがパネルに再現されます。

なお、HSシリーズのデータを移さなければ、すべての数字ボタンに同じパターン（ワルツのバリエーション、16ビート1、ブレイク）がセットされています。

DISABLE (ディセーブル)



メモリーしたレジストレーションを呼び出すとき、このボタンを入れておくと、リズムと、演奏補助機能のレジストレーションが固定されます。したがって、1~5の数字ボタンを押してレジストレーションを変更しても、オートリズム、アルペジオコード、オートベースコード、メロディオンコードのセッティングは同じ状態に保たれます。音色と効果のみ変更したいときにお使いください。

リズムのユーザーパターンのメモリー

リズムのユーザー1、ユーザー2、ユーザーフィルインのデータは、レジストレーションメモリーの各数字ボタン（1~5）にそれぞれひとつずつのメモリー領域を持っています。したがって、HS-5の1~5のボタンにそれぞれ異なったパターンを登録し、そのデータをパックによってHK-10に移した場合は、各数字ボタンごとに異なるユーザーパターンのデータが移ります。（→29ページ）

レジストレーションメモリーに関する細かい説明

[メモリーの操作とランプの点灯について]

★レジストレーションメモリーの数字ボタンのランプは、常にどれかひとつが点灯していますが、レジストレーションを記憶させる操作は、ランプの点灯、消灯に関係なく行うことができます。

〈点灯している数字ボタンにメモリーの操作を行った場合〉

点灯していた数字ボタンに新しいレジストレーションが記憶されます。ランプは点滅した後、点灯に戻ります。

〈消灯している数字ボタンにメモリーの操作を行った場合〉

メモリーの操作を行った数字ボタンに新しいレジストレーションが記憶され、点灯していた数字ボタンの内容は変わりません。メモリーの操作を行ったボタンのランプは、いったん点滅してから、消灯します。

[再現したレジストレーションの変更]

★数字ボタンを押してレジストレーションを再現させた後、パネルのセッティングを変えれば、レジストレーションを部分的に変更することができます。この場合、パネルのセッティングを変えても、数字ボタンにメモリーされている内容は変わりません。

[メモリーしたデータの保存]

★レジストレーションメモリーに記憶させたデータはRAMパックに移して保存しておくことができます。（→28ページ）

[メモリーのボタンの働きについて]

★赤いM（メモリー）ボタンは、レジストレーションを記憶させる時のほかにも、RAMパックなどにエレクトーンのデータを移す時にも使用します。（→28ページ）

[メモリーしたデータの保護]

★レジストレーションメモリーのデータは、電源を切っても、内蔵の電池によって保持されます。保持される期間は最低1週間。電源をOFFにしたまま保持される期間を過ぎた場合は、レジストレーションメモリーの内容は、基本レジストレーションの内容に置き替わります。

[電源OFF時のセッティングの保持]

★レジストレーションメモリーの保持とは別に、電源をOFFにした時点でセットされているレジストレーションは保持されます。電源をONにすると、保持されているレジストレーションが再現されます。

2 パック

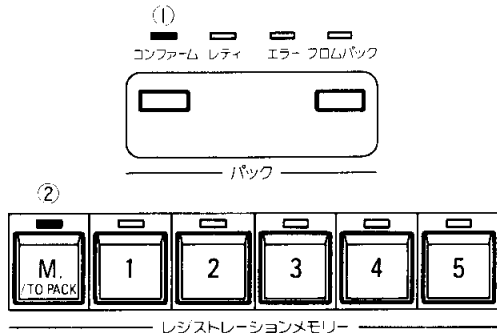
エレクトーンに記憶させたレジストレーションメモリーのデータを、RAMパックに移し、移したデータはいつでもエレクトーンに戻すことができます。

エレクトーンのデータ→RAMパック

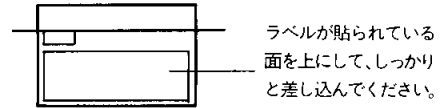
(トゥーパックの操作)

1 エレクトーンにレジストレーションメモリーのデータを記憶させます。(→26・27ページ)

3 コンファーム①を押しながら、レジストレーションメモリーのトゥーパック②を押しします。



2 RAMパックをエレクトーンに差し込みます。



▶緑色のレディのランプが点灯になり、フロムパックの操作が行える状態になったことを示します。

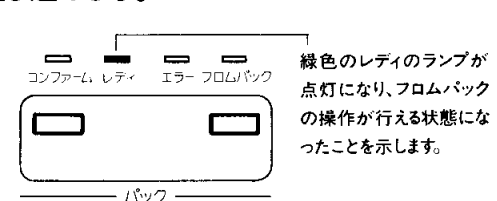
トゥーパックのランプが点灯してから点滅になり、その後消灯して、エレクトーンのデータがRAMパックに移ったことを示します。この操作を行った後は、RAMパックを抜き取ってもかまいません。

▶トゥーパックの操作を行うと、それまでRAMパックに記憶されていたデータが消去され、エレクトーンのデータに置き替わります。

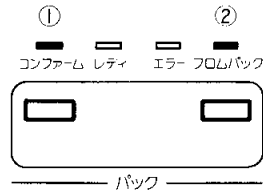
RAMパックのデータ→エレクトーン

(フロムパックの操作)

1 データを移しておいたRAMパックをエレクトーンに差し込みます。



2 コンファーム①を押しながら、フロムパック②を押しします。



フロムパックのランプが点灯してから点滅になり、その後消灯して、RAMパックのデータがエレクトーンに移ったことを示します。この操作を行った後は、RAMパックを抜き取ってもかまいません。

▶次のようなときには、トゥーパックとフロムパックの操作を行うことができません。リズムをスタートさせているとき、MDR-2Pを動作させているとき。

パックに関する細かい説明

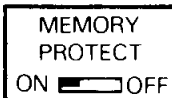
(使用できるRAMパック)

★8KバイトのRAMパックRP-3がご使用になれます。また32KバイトのRAMパックRP-5もご使用になれます。

(メモリープロテクト)

★RAMパックに移したデータを消去したくない場合は、RAMパックに付いているメモリープロテクトスイッチをONにセットしてください。誤ってトゥーパックの操作を行っても、新たなデータはメモリーされず、RAMパックのデータが保護されます。(フロムパックの操作は行えます。)

再度、RAMパックに新たなデータをメモリーしたい場合は、メモリープロテクトスイッチをOFFにセットしてください。



(エラーランプが点滅した場合)

★赤いエラーランプは、次のような場合に点滅し、アラーム音が3回鳴ります。操作方法などを間違えていないかどうかを確認してください。

■RAMパックの差し込み方が不完全な場合。

■未使用のRAMパックを初めてエレクトーンに差し込んだ場合。(この場合、コンファームボタンを押せば、トゥーパックの操作が行えるようになります。)

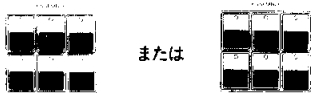
■RAMパックのメモリープロテクトスイッチがONになっている時に、トゥーパックの操作を行った場合。

HS-5とHK-10は、RAMパックによってデータのやりとりができます。その際、HS-5にあってHK-10にないもの(またはその反対)に関しては注意が必要です。

HS-5のデータ → HK-10

HK-10にはアンサンプルのボタンがないので、HS-5のレジストレーションをセットする前に、アンサンプルのボタンを下図のようにセットしておきましょう。

- がON、
- がOFF



各音色グループのON/OFFは、それぞれの音色グループの音量によって行ってください。

- ▶パーカッションのみ、アンサンプルのボタンによってON/OFFをセットすることができます。また、アッパーパーカッションとローパーカッションを両方OFFにした状態でHK-10に移すと、アルペジオコードがONの状態になります。

HS-5のユーザーボイスをHK-10で使えます。

HK-10のボイスメニューにあるユーザーボイス1~4には、あらかじめ音色がセットされています(→11ページ)、HS-5のボイスエディット機能を使って登録したユーザーボイスを、パックによってHK-10のユーザーボイスに移し、使うことができます。また、HS-5のボイスメニューの音色も、ボイスエディット機能をつかってそのままユーザーボイスに登録することによって、HK-10で使うことができます。



HK-10のデータ → HS-5

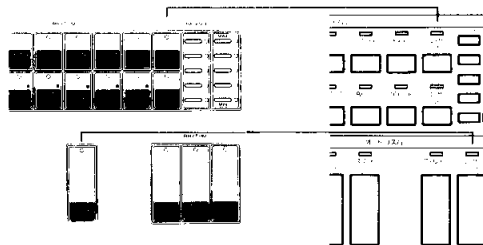
HS-5にはディセーブル(D)のボタンがないので、レジストレーションメモリーを使う場合は、あらかじめディセーブル(D)のボタンをOFFにしておきましょう。



- ▶HS-5ではディセーブルOFFの状態が再現されます。
- ▶HK-10のデータをHS-5に移した場合、ディセーブル以外はHK-10に記憶されていたままのデータが再現されます。(HS-5のデータをHK-10に移したときのデータとは異なります。)

HS-5のユーザーパターンをHK-10で使えます。

HK-10のユーザーパターン(ユーザー1・ユーザー2・ユーザーフィルイン)には、あらかじめリズムパターンがセットされています(→17ページ)、HS-5のR.P.P機能を使って登録したリズムパターンを、パックの操作によってHK-10のユーザーパターンに移し、使うことができます。また、HS-5のリズムメニューのリズムパターンも、R.P.P機能を使ってそのままユーザー1・2に登録することによって、HK-10で使うことができます。



- ▶それぞれのパターンに対してレジストレーションメモリー1~5のボタン5つ分、計15種類のユーザーパターンを、HK-10の演奏で使うことができます。

HS-5とHK-10のデータのやりとりに関する細かい説明

[付点ボタンに移したボイスメニューの音色]

- ★HS-5で各音色グループの付点ボタンに移したボイスメニューの音色で、HK-10にない音色はHK-10には移りません。(ただしHS-5のコンビ1はジャズオルガンとして、パイプオルガン1はパイプオルガンとして、エレクトリックピアノ1はエレクトリックピアノとして、それぞれHK-10に移ります。)

[ビブラートについて]

- ★HS-5→HK-10の際に、HS-5でセットしたユーザービブラートのリードボイスのデレイ、スピードのデータもHK-10に移されます。HS-5のビブラートデータがHK-10に移された後、再びHK-10でプリセットされている状態に戻したいときは、ボイスメニューのオリジナルボイスを押しながら、ビブラートの上鍵盤リードを押してください。

[トレモロ/シンフォニックについて]

- ★以下のようにHS-5からHK-10に移ります。(※印に注意)

(HS-5)	(HK-10)
シンフォニックON	→シンフォニックON
*セレステON	→シンフォニックON
トレモロON	→トレモロON
コーラスON	→コーラスON(トレモロ、シンフォニックOFF)
*トレモロとコーラス両方OFF	→コーラス(トレモロ、シンフォニックOFF)

[データ転送のみされるもの]

- ★HK-10では、HS-5のレジストレーションメモリー6以降のデータ、R.P.P.(のレジストレーションメモリー)6以降のデータ、R.C.P.・R.S.P.・F.M.P.のデータを演奏に

使うことはできませんが、メモリー領域だけは確保しています。

したがって、HS-5→HK-10の操作を行う際に記憶されていたデータが、HK-10→HS-5の操作の際に再現されます。(データが入っていない場合でも、「データが入っていない」というデータが移され、リセット状態となります。)

[オートリズムについて]

- ★HS-5でオートリズムの付点ボタンに移したリズムパターンは、HK-10には移りません。

[オートベースコードについて]

- ★HS-5→HK-10の際に、HS-5のマルチメニュー12にあるメモリーのロー、ペダルのデータは移りません。

[アルペジオコードについて]

- ★HS-5→HK-10の際に、アルペジオコードの音色は、すべてHK-10のオリジナル音色になります。

[M.O.C.について]

- ★HS-5→HK-10の際に、HS-5でパネル面のM.O.C.がONの場合のみ、マルチメニュー12のM.O.C.1・2のON/OFFがHK-10のM.O.C.1・2のON/OFFに対応します。

[フットスイッチについて]

- ★HS-5→HK-10の際に、HS-5でフィルイン1またはフィルイン2がONならば、HK-10のフィルインはONとみなされます。

[タッチトーンについて]

- ★HS-5→HK-10の際に、HS-5のマルチメニュー10タッチトーンのアッパー&ローのON/OFFが、HK-10のタッチトーンのON/OFFに対応します。

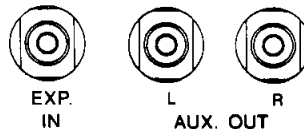


HEADPHONES

(前面左)

●HEADPHONES(ヘッドホン端子)

ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプでもご使用になれます。ヘッドホンを使えば、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。[出力インピーダンス60Ω]



EXP.
IN

L

R

AUX. OUT

(前面左下)

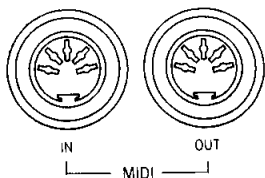
●AUX. OUT(ライン出力端子)

外部アンプ機器などと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたい時に使う端子です。またテーブデッキの[LINER-IN]端子と接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。

(注)ご使用になるテーブデッキにより録音レベルが合わないこともございますので、ご注意ください。

●EXP. IN(エクスプレッション連動入力端子)

シンセサイザーやリズムマシンの出力端子と接続し、それらの音をエレクトーンのスピーカーからだしたい時に使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールすることができます。



IN

OUT

MIDI

(前面右下)

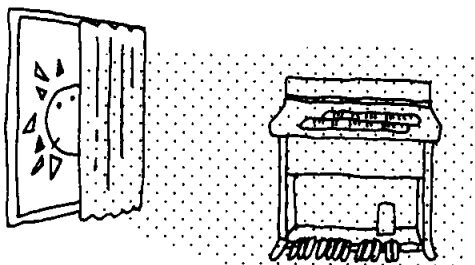
●MIDI OUT/IN(ミディ端子)

MIDI(ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス)は、デジタル電子楽器の世界統一規格です。MIDI対応のシンセサイザー、リズムマシン、パソコンなどと接続すれば、いろいろな楽しみ方ができます。

末永く安全にお使いいただくために

設置場所について

直射日光はさけてください。
暖房器具の近くには設置しないでください。
湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
振動の少ない、平らな床面に設置してください。
壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。

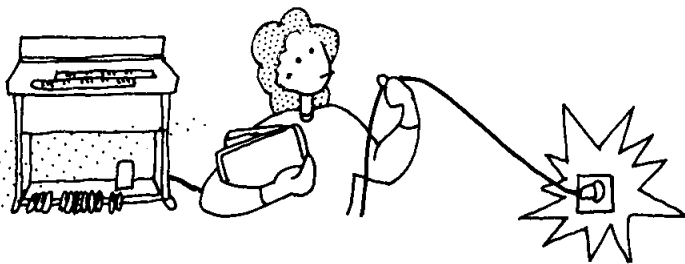


外装・鍵盤のお手入れは

外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
よごれがひどい場合は、水でうすめた台所用中性洗剤にひたした布をよく絞って拭きとり、乾いた布で仕上げてください。
シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。

電源コードを大切に

エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っかけたりしないように注意してください。
コンセントから抜くときは、電源コードを引っぱらないでください。
電源コードの継ぎ足しは危険ですからさけてください。



無理な力を加えないでください

ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
椅子・譜面板などの取扱いは、キズをつけないように注意してください。

セットの移動時には

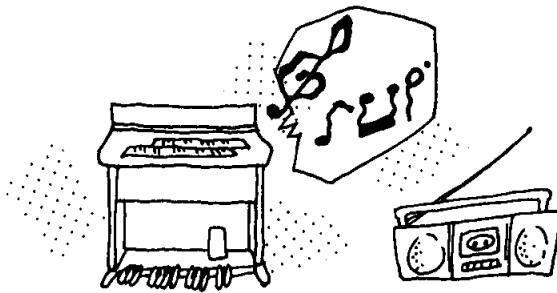
セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

他の機器との接続について

外部アンプ機器等を接続する場合、30ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

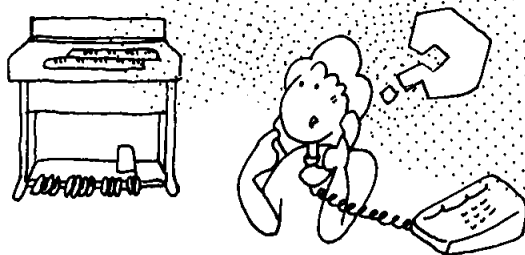


落雷に対する注意

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。

万一異常があったら

使用中に音がでなくなったり、異常なおい煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



本書と保証書の保管について

本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

RAMパックの取り扱いと保管について

RAMパックには、LSIなどの電子部品が使用されていますので、その取り扱いや保管では次の点に注意してください。

落としたり、強い力を加えたりしないでください。
差し込み口の金属部を堅いものでこすったりして、キズをつけないようにしてください。
内部に水やホコリが入らないように注意してください。
保管する場合は、過度な温度や湿度にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。
持ち運ぶ際は、パックの情報が衣類などの静電気によって消えてしまうことがありますので、必ず専用のケースをお使いください。

故障だとお考えになる前に

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現象	原因と処置
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンの設置場所や状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になるときは、電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音と低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音がある。	主に管楽器系の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな特徴をそなえた楽音が得られます。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、リードボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびリードボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。(→9ページ)
上鍵盤または下鍵盤を同時に8音おさえても7音しかでない。	上鍵盤または下鍵盤では、最大7音まで同時に発音するようになっています。(→9ページ)
ボリュームをセットしても、ペダル鍵盤の音色が発音しない。	オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガードコードがセットされています。パネルのシングルフィンガーまたはフィンガードのボタンをOFFにしてください。
パーカッションの音色を選んでも、鍵盤でその音色が発音されない。	パーカッションの上鍵盤または下鍵盤のボタンが両方ともOFFになっているか、または上(下)鍵盤のボタンがONになっているのに、下(上)鍵盤で弾いています。発音させたい鍵盤のボタンをONにしてください。(→7ページ)
上鍵盤の音量が下鍵盤の音量に比べて大きすぎる。(またはその逆)	バランスのセットが上鍵盤(または下鍵盤)側に寄りすぎています。通常の演奏では、中央付近にセットしてください。(→8ページ)
表示されている音色とは異なる音色が発音する。	点灯しているグレーのボタンに、ボイスメニューの音色が移されています。ボイスメニューの一番右にあるオリジナルボイスのボタンを押しながら、グレーのボタンを押し、ボイスメニューの音色を解除してください。(→10・11ページ)
ボイスメニューのユーザーボイスの音色をグレーのボタンに移して発音させたら、出したい音色とちがう音色が出た。	ユーザーボイス1~4にはあらかじめ音色がセットされていますが、バック機能を使ってHISシリーズのデータを移したときは、バックにメモリーされているユーザー音色に入れ替わります。あらかじめセットされていた音色に戻したい場合は、電源のスイッチをいったん切り、ボイスメニューの一番左にあるジャズオルガンのボタンを押しながら、電源のスイッチをもう一度ONにしてください。(→18ページ)
基本レジストレーションをレジストレーションメモリーに呼び出すことができない。	電源スイッチを入れたあと、すぐにメモリーボタンをはなしているためです。メモリーボタンをおさえながら電源を入れ、そのあと約1~2秒はメモリーボタンをおしつづけてください。
パネルのサステインまたはビブラートをONにしても効果がかからない。	パネルの右側にあるサステイン/ビブラートデブスカがOFFになっていると、効果がかりません。1~4にセットしてください。(→12・13ページ)
タッチコントロールが効かない。	パネルの右側にあるタッチトーンがOFFになっています。タッチトーンのボタンをONにしてください。
パネルに表示されているリズムとは異なるリズムパターンが発音する。	ユーザーボタンがONになっています。ユーザーパターンを使用しない場合は、ユーザー1、ユーザー2のボタンをOFFにしてください。(→17ページ)

現象	原因と処置
ユーザー1・2のパターンを出そうとしたら、ちがうパターンが出てきた。またはユーザーフィルインをブレイクに使用しようと思って押したら、フィルインパターンが入っていた。	バック機能を使ってHSシリーズのデータを移したときの、ユーザーフィルインのパターンが入っているためです。何も登録されない状態に戻したい場合は、電源のスイッチをいったん切り、ボイスメニューの一番左にあるジャズオルガンのボタンを押しながら、電源のスイッチをもう一度ONにしてください。(→18ページ)
ボリュームをセットしても、アルペジオコードの音が発音しない。	①リズムがスタートしていません。アルペジオコードはリズムと一緒に使用してください。(→24ページ) ②パーカッションの上鍵盤または下鍵盤ボタンがONになっています。両方ともOFFにしてください。
リズムパターンとアルペジオコードのパターンが連動しない。または、リズムパターンとフィルイン、イントロ/エンディングのパターンが連動しない。	リズムのユーザーボタンがONになっています。ユーザーパターンとプリセットパターンは連動するようになっていません。(17ページの「ユーザーパターンを使う場合は」をお読みください。)
下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえるとリズム楽器の音が一緒に発音する。	キーボードパーカッションのボタンがONになっています。キーボードパーカッションを使用しないときは、OFFにしてください。(→20ページ)
シングルフィンガーで下鍵盤の高い方を押さえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーでは定められた1オクターブの中の音が出るようになっています。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置を押さえても同じ音程で和音が出てきます。(→24ページ)
上鍵盤と下鍵盤を同時に弾いても、メロディーオンコードによるハーモニーの音が出てこない。	ハーモニーの音色がセットされていないためです。上鍵盤オーケストラボイス音色を選び、音量をセットしてください。また、上鍵盤の低音域でメロディーを弾くと、ハーモニーの音が出てこない場合があります。(→25ページ)
レジストレーションメモリーに記憶できない機能がある。	オートリズムのスタート、シンクロススタート、フィルイン、イントロ/エンディングの各スイッチ、ピッチなどの機能は記憶しないようになっています。
新品のRAMパックを差しこむとエラーのランプが点滅する。	未使用のRAMパックをエレクトーンに差しこんだ場合はエラーのランプが数回点滅します。そのまま、コンファームのボタンをおしてトワーパックの操作を行ってください。(→28ページ)
トワーパックの操作をすると、エラーのランプが点滅する。	パックの差し込み方、操作方法を再度確認してやり直してください。また、RAMパックのメモリープロテクトのスイッチがONになっていると、トワーパックの操作をしても情報は移りません。
コントロールパネルなどが正常に働かない。または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	非常にまれなことですが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンが正常に機能しなくなったり、メモリーしていた情報が変わったりすることがあります。このような場合は、いったん電源スイッチを切り、ボイスメニューの一番左にあるジャズオルガンのボタンを押しながら、電源のスイッチをもう一度ONにしてください。
キャストターが回らず、エレクトーンが移動できない。	ストップバーが下がっていると、キャストターは固定された状態のまま、回りません。ストップバーを上げて、キャストターが回る状態にしてください。(→2ページ)
電源コードを引っばっても、コードリール機能によって電源コードが自動的に収納されない。	電源コードを思いきり引っばって離すと、自動的に本体内部に収納されない場合があります。コードは軽く引っばり、離すようにしましょう。(→3ページ)

MIDIについて

エレクトーンHK-10には、先進のエレクトロニクス楽器ならではの楽しみ方ができるMIDI端子がついています。MIDIとは、電子楽器どうしの間で各種の情報のやりとりができるようにした世界統一規格。他のキーボードやリズムマシンと接続して、ひとりでアンサンブルを楽しんだり、パソコンと接続して演奏情報をやりとりするなど、いろいろな使い方ができます。

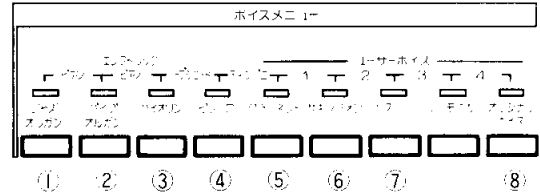
送/受信できる主なデータ

- 演奏データの送/受信(オムニ・オフ、ポリモード)
上鍵盤：1チャンネル
下鍵盤：2チャンネル
ペダル鍵盤：3チャンネル
- エクスプレッションペダル・サステインのコントロールデータの送/受信
- レジストレーションメモリの切り替えデータの送/受信
- アフタータッチ(上鍵盤のみ)のデータの送/受信
- フィルイン・ユーザーフィルイン・イントロ/エンディング・フットスイッチのコントロールデータの送/受信(エクススクリーンメッセージ)
F0H, 43H, 70H, 70H, 40H, *nnH, **xxH F7H
*フットスイッチ：45H、フィルイン：48H、イントロ/エンディング：4BH、ユーザーフィルイン：4CH
**ON：7FH、OFF：00H

〈備考〉
エクススクリーンメッセージのコードは、HSシリーズに準じています。くわしくはHSシリーズの取扱説明書をご参照ください。

MIDIのモードを切り替える操作

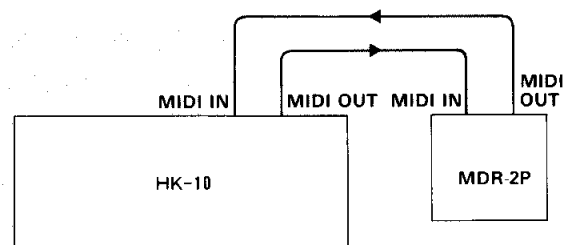
ボイスメニューのボタンを使います。



項目	切り替える操作	もとに戻す操作	備考
リズム同期モードの切り替え (内部同期モード⇄外部同期モード)	オリジナルボイス⑧を押しながら、ジャズオルガン①を押す。	オリジナルボイス⑧を押しながら、パイプオルガン②を押す。または、いったん電源をOFF。	リズムマシンやリズム機能を備えた楽器の信号をエレクトーンに受信させるときに行う。
リードボイスの受信チャンネルの分離 (1チャンネル⇄4チャンネル)	オリジナルボイス⑧を押しながら、バイオリン③を押す。	オリジナルボイス⑧を押しながら、ピッコロ④を押す。または、いったん電源をOFF。	MDR-2Pにチャンネルで記録しておいたリードボイスの演奏を再生するときなどに行う。
上鍵盤と下鍵盤の送信チャンネルの変更 〈上鍵盤〉 1チャンネル⇄4チャンネル 〈下鍵盤〉 2チャンネル⇄5チャンネル	オリジナルボイス⑧を押しながら、クラリネット⑤を押す。	オリジナルボイス⑧を押しながら、サキソフォン⑥を押す。または、いったん電源をOFF。	MDR-2Pなどに録音する際、特定の音色グループ(リードボイスやアルペジオコードなど)の演奏を別のチャンネルで多重録音したいときなどに行う。
バルクデータ送信	オリジナルボイス⑧を押しながら、バスーン⑦を押す。		MDR-2P以外のMIDIレコーダーにバルクデータを送信するときに行う。

HK-10の演奏やレジストレーションをMDR-2Pに録音し、再生することができます。また、HSシリーズからMDR-2Pに記憶した演奏を、HKで再生すること(またはその反対)も可能です。これによって、レッスン中に生徒さんの演奏を録音したり、アンサンブルパートをMDR-2Pにまかせて演奏したり、HSシリーズの演奏をHK-10で再生するなど、さまざまに活用することができます。

▶ただし、HSシリーズのレジストレーションをMDR-2Pに録音し、HK-10で再生する場合は、HSシリーズにあってHK-10にない機能は使わずに、HSシリーズのレジストレーションをセットしてください。



Electone HK-10

MIDIインプリメンテーションチャート

Date : 1988.04.01
Version : 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	デフォルト 設定可能	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル 16チャンネル 4チャンネル 5チャンネル	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル 15チャンネル 16チャンネル 4チャンネル	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 キーボード/バーカッション コントロール 上鍵盤 下鍵盤 リードボイス
モード	デフォルト メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー		48-96 36-84 36-55 × × × *****	36-96 36-96 36-96 36-96 36-96 36-96 36-96	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 リードボイス アルペジオコード キーボード/バックカッション 上/下/ペダル鍵盤
ペロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○9nH、v=1-127 ○9nH、v=0	○9nH、v=1-127 ○9nH、v=0、 8nH	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ○(1チャンネルのみ)	× ○	
ピッチベンダー		×	○0-12セミ	*
コントロールチェンジ	I 4 II 64	× × ○ ○	○ ○ ○(外部モード時のみ) ○	* モジュレーションホイール * セカンドエクスプレッションペダル エクスプレッションペダル サステイン
プログラムチェンジ	設定可能範囲	0-4 *****	0-4 0-4	レジストレーションメモリー
エクスクルーシブ		○ **	○ **	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	○ ○	*** (FAH、FCH)
その他	ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	× ○ ○ ○	
備考		*リードボイスを4チャンネルに変更しているときのみ受信。 * * HSシリーズのMIDIコード一覧参照。 * * * 受信は外部同期モード時のみ。		

モード1: オムニ・オン、ポリ モード2: オムニ・オン、モノ
モード3: オムニ・オフ、ポリ モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし

仕様と音域表

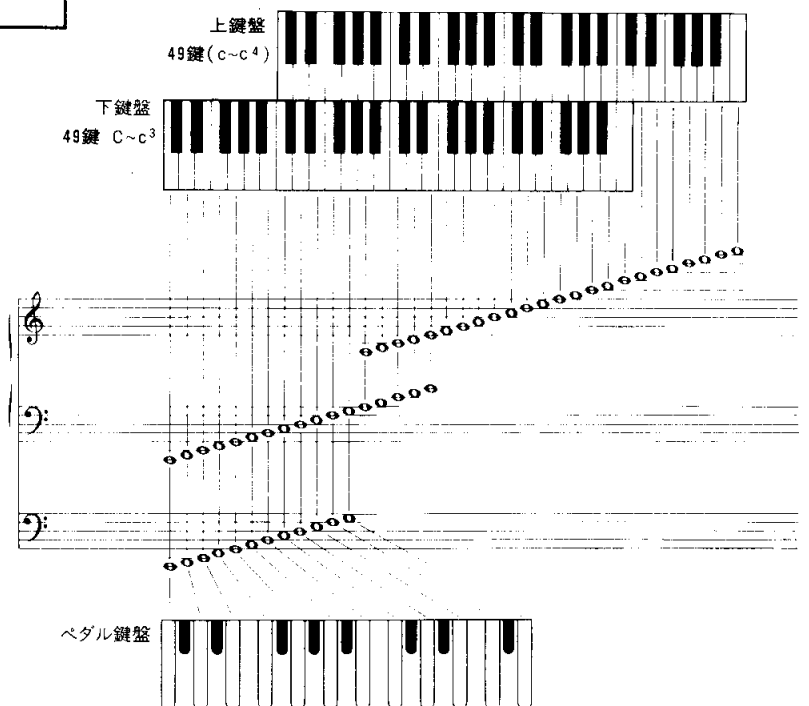
仕様

鍵盤	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤	49鍵 C-c4(4オクターブ) 49鍵 C-c3(4オクターブ) 20鍵 C-g(11/2オクターブ)
タッチレスポンス	イニシャルタッチ アフタータッチ	上鍵盤、下鍵盤 上鍵盤
音色	上鍵盤オーケストラ ボイス 下鍵盤オーケストラ ボイス リードボイス バック アップボイス ベースボイス ボイスメニュー	ストリングス、ブラス1、ブラス2、ウッド、ボーカル、コンビネーション、音量 ストリングス、ブラス1、ブラス2、ボーカル、コンビネーション1、コンビネーション2、音量、フルート、オーボエ、トランペット、トロンボーン、音量 ピアノ、ビブラフォン、ジャズギター、ギター、上鍵盤、下鍵盤、音量 コントラバス1、コントラバス2、エレクトリックベース、チューバ、音量 ジャズオルガン、バイブオルガン、バイオリン、ピッコロ、クラリネット、サキソフォン、バスーン、ハーモニカ、ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ティンパニー、ユーザーボイス1・2・3・4、オリジナルボイス
効果・コントロール	サステイン ビブラート トレモロ/シンフォニック グライド(リード) タッチトーン ピッチ	上鍵盤(ニーレバー)、下鍵盤(ニーレバー)、ペダル 上鍵盤オーケストラ、下鍵盤オーケストラ、上鍵盤リード サステイン/ビブラート デブス(1~4) 上鍵盤オーケストラ、下鍵盤オーケストラ、トレモロ、シンフォニック、(コーラス) (フットスイッチ) ▲、▼
オートリズム	リズムパターン コントロール フットスイッチセレクター	マーチ、ワルツ、スイング、サンバ、ラテンロック、バウンス、ディスコ、タンゴ、バラード、ボサノバ、ラテン、スローロック、8ビート、16ビート、ユーザー1、ユーザー2 音量、テンポ、テンポランプ、スタート、シンクロスタート、フィルイン、ユーザーフィルイン、イントロ/エンディング リズムストップ、フィルイン、ユーザーフィルイン、グライド(リード)

キーボードパーカッション	下鍵盤、ペダル	
アルペジオコード	1・2・3・4、音量	
オートベースコード	シングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA、B、C、メモリー	
メロディーオンコード	1・2・(1+2)、ニーレバー	
レジストレーションメモリー	1・2・3・4・5、メモリー、ディセーブル、基本レジストレーション:1・2・3・4・5	
バック	コンファーム、フロムバック、トゥーバック、レディー、エラー	
メインコントロール	音量、エクスペクションペダル、電源、フットスイッチ、ニーレバー	
付属端子	ヘッドホン、オクス・アウトL・R、エクスペクション、MIDIイン・アウト	
教室機能	コードリール キャスト 上下昇降機構	巻き込み式コードリール 左右、ストップ付 電動式、上下18cm可変スライド
アンプ	30W	
スピーカー	18cm×1、5cm×1	
定格電圧・定格消費電力・定格周波数	100V・120W・50/60Hz	
寸法・重量	本体 椅子	寸法 間口:108.3cm、奥行:49.3cm、高さ:90.9cm (最も高い状態でフタを起こしたとき:116.2cm) 重量 75kg 寸法 間口:57.4cm、奥行:34.0cm、高さ:58.2cm (最も高い状態:72.2cm) 重量 13kg
外装	ライトグレー・アクリルラッカーフィニッシュ	

音域表

- この音域表は8の音を基準にしています。
- ペダル鍵盤の実音は、記譜より1オクターブ低い音になります。



YAMAHA電気音響製品サービス拠点

エレクトーンの製造に当たっては万全を期しておりますが、万一故障などの際は、下記電音サービスセンター、サービスステーションまでお問い合わせください。

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL.025-243-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL.06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL.0878-51-7777、22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター TEL.052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1-4 ヤマハセンター TEL.011-513-5036
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL.022-236-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL.082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-6711
(本社)	
電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-1158

☆住所および電話番号は変更になる場合があります。

エレクトーン事業部／〒430 浜松市中沢町10-1
TEL.0534(60)2191
東京事業所／〒104東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(572)3140
大阪事業所／〒542 大阪市南区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
TEL.06(252)7541
名古屋事業所／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052(201)5140
九州営業所／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092(472)2152
北海道営業所／〒064 札幌市中央区南十条西1-4 ヤマハセンター
TEL.011(512)6114
仙台営業所／〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル
TEL.022(222)6141
広島営業所／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082(244)3748

エレクトーン®は当社の登録商標です。

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION
ヤマハ株式会社